

宮城県 柴田町  
男女共同参画社会アンケート調査

---

報告書

□■ 集計結果 ■□

平成26年11月

## 目 次

---

I. 調査の概要	1
I-1. 調査の目的と概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
I-2. 調査報告書のみかた	3
1. 報告書の構成	3
2. 集計・分析結果を読む際の留意点	3
II. 調査結果	4
II-1. あなたご自身のことについて	4
1. ご自身のことについて	4
(1) 性別	4
(2) 年齢	5
(3) 居住地区	7
(4) 婚姻の有無	9
(5) 既婚者のみ回答 職業の形態	10
(6) 世帯構成	12
(7) 子どもの状況	14
(8) 職業	15
II-2. 男女共同参画用語について	16
1. 男女共同参画用語について	16
II-3. 男女の地位について	18
1. 男女の地位について	18
II-4. 仕事と生活の調和について	20
1. ワーク・ライフ・バランスについて	20
2. 生活の優先度について	22
3. 仕事以外の時間の使い方について	25
4. 女性特有の疾病に関する理解度について	26
5. 男女の役割について	28
II-5. 仕事について	30
1. 職場での女性の働き方について	30
2. 女性が職場で能力を発揮するために	31
3. 女性の雇用拡大について	33
4. 職場での悩み事相談について	35
5. 男性の育児休暇取得について	36

II-6. ドメスティック・バイオレンス（DV）について	37
1. DV相談窓口の認知度について	37
2. デートDVについて	38
3. DV防止法の適用範囲拡大について	39
II-7. 防災について	40
1. 非常時にける性別の違いによる困難の理解について	41
2. 避難所運営における男女の役割について	42
II-8. 社会参加について	43
1. 女性の社会進出について	43
2. あらゆる場面への積極的参加について	45
3. 町の施策に望むこと	47
II-9. ご意見・ご要望について	49

# I. 調査の概要

## I-1. 調査の目的と概要

---

### 1. 調査の目的

柴田町では、男性・女性があらゆる分野に参画し、自分の持つ個性や能力を発揮できる男女共同参画社会を実現するため、平成23年度から5年計画の『第3次しばた男女共同参画プラン』を策定し、さまざまな取組みを進めてきました。このたび、第3次しばた男女共同参画プランの計画期間が終了することから、本町のさらなる男女共同を推進する『第4次しばた男女共同参画プラン』を策定することになりました。

第4次しばた男女共同参画プラン策定に関するアンケート（以降、本調査とする。）は、計画策定にあたり、町民の皆様のご意見をお聞かせいただき、実施する施策や男女共同に関する町民の意識や意向について、率直な意見をうかがい、実効性ある計画に反映することを目的に実施しました。

### 2. 調査の概要

本調査の調査対象及び配付、回収状況は、下表のとおりとなっています。

#### 《 調 査 概 要 》

- 調査対象：柴田町に居住する20歳以上の町民1,000名（無作為抽出）
- 調査内容：
  - ① ご自身のことについて
  - ② 男女共同参画用語について
  - ③ 男女の地位について
  - ③ 仕事と生活の調和について
  - ④ 仕事について
  - ⑤ ドメスティック・バイオレンス（DV）について
  - ⑥ 防災について
  - ⑦ 社会参加について
  - ⑧ 自由意見

○ 調査期間：平成26年9月～10月

○ 調査方法：郵送配布・回収

○ 配付・回収：

対 象	配付数	回収数	回収率
柴田町に居住する20歳以上の町民	1,000	297	29.7%

年代	発送数	割合	回答数	回収率
20歳代	133	13.3%	19	6.4%
30歳代	166	16.6%	37	12.4%
40歳代	174	17.4%	32	10.8%
50歳代	169	16.9%	57	19.2%
60歳代	212	21.2%	89	30.0%
70歳以上	147	14.7%	61	20.5%
無回答	—	—	2	0.7%

## I-2. 調査報告書のみかた

---

### 1. 報告書の構成

報告書は、各設問の集計結果及びその分析結果を掲載しています。

### 2. 集計・分析結果を読む際の留意点

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

#### 《 分析結果を読む際の留意点 》

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「調査結果」の図表に表示している前回結果とは、第3次しばた男女共同参画プラン策定の資料とした「しばた女性施策推進基本計画づくりに関する町民アンケート（平成22年調査）」の結果を示しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数第1位までを表記しています。  
また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがあります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることをあらわします。
- 母数が100未満の場合の百分率は、統計的誤差が大きい可能性が高いので数値の取扱いには特に注意が必要となります。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していません。  
よって、「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合があります。
- 設問のカテゴリ項目（選択肢）が長い場合は、図表中及び文章中にて省略して表記している場合があります。
- 前回アンケート調査と重複する設問については、表中に列を追加または（）により表示しています。

## Ⅱ. 調査結果

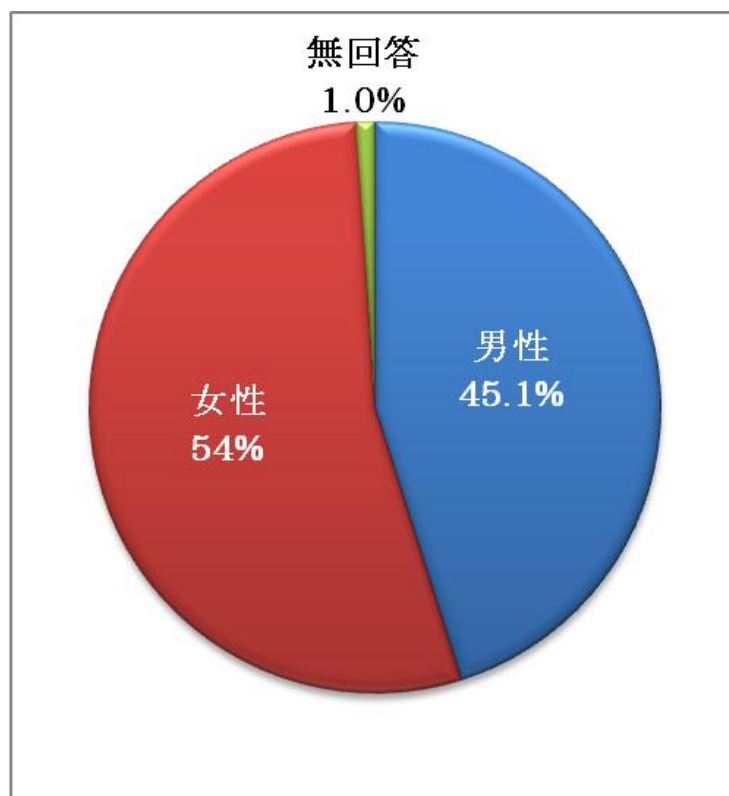
### Ⅱ－１. あなたご自身のことについて

#### 1. ご自身のことについて

##### (1) 性別

- 性別は、「男性」が45.1%、「女性」が53.9%となっています。
- 前回比では、女性の回答率が1.2%増加しています。

図表 性別

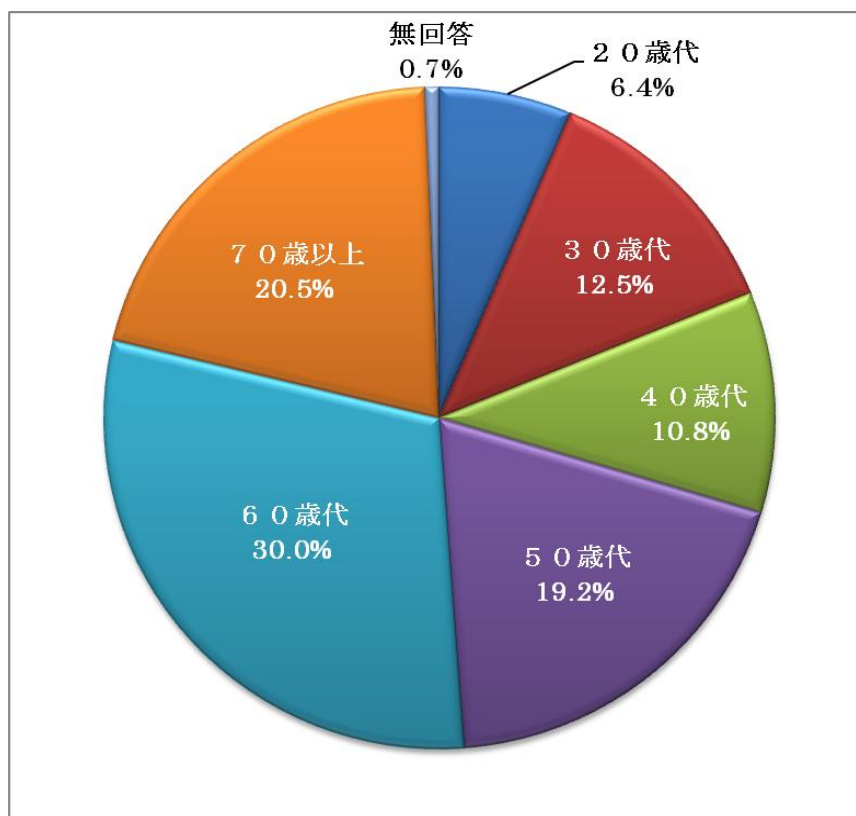


項目名	回答数	構成比	前回	比較
男性	134	45.1%	46.9%	▲1.8%
女性	160	53.9%	52.7%	1.2%
無回答	3	1.0%	0.4%	0.6%
計	297	100.0%	100.0%	0.0%

## (2) 年齢

- 回答のあった年齢は、「60代」が30.0%と最も多くなっています。次いで「70歳以上」が20.5%、「50代」が19.2%となっています。

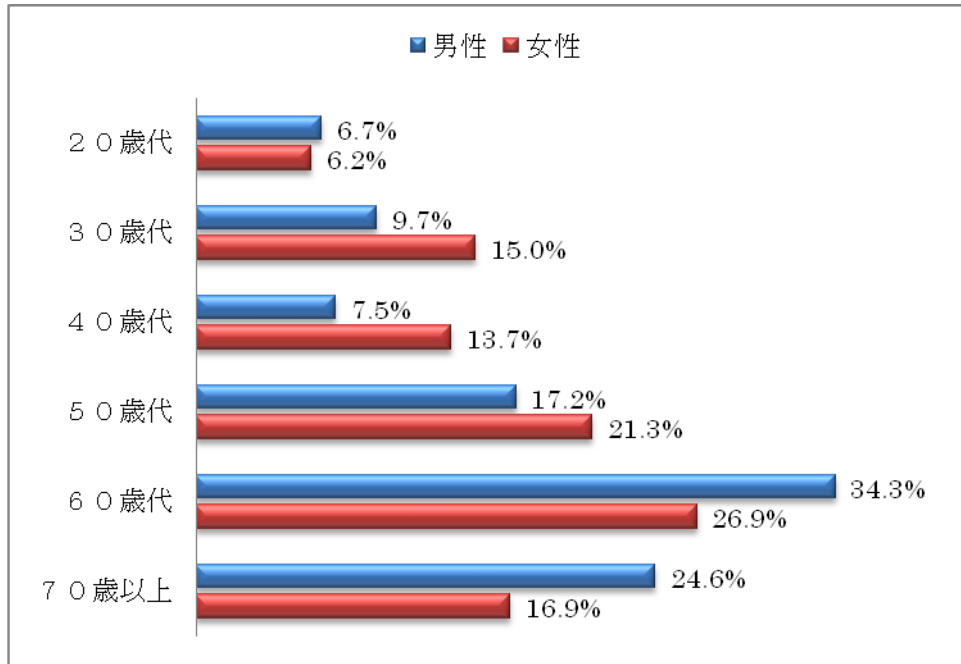
図表 年齢



目名	回答数	構成比	前回	比較
20歳代	19	6.4%	8.2%	▲1.8%
30歳代	37	12.4%	18.0%	▲5.6%
40歳代	32	10.8%	14.3%	▲3.5%
50歳代	57	19.2%	20.7%	▲1.5%
60歳代	89	30.0%	26.9%	3.1%
70歳以上	61	20.5%	11.6%	8.9%
無回答	2	0.7%	0.3%	0.4%
計	297	100.0%	100.0%	0.0%



図表 年齢（性別）

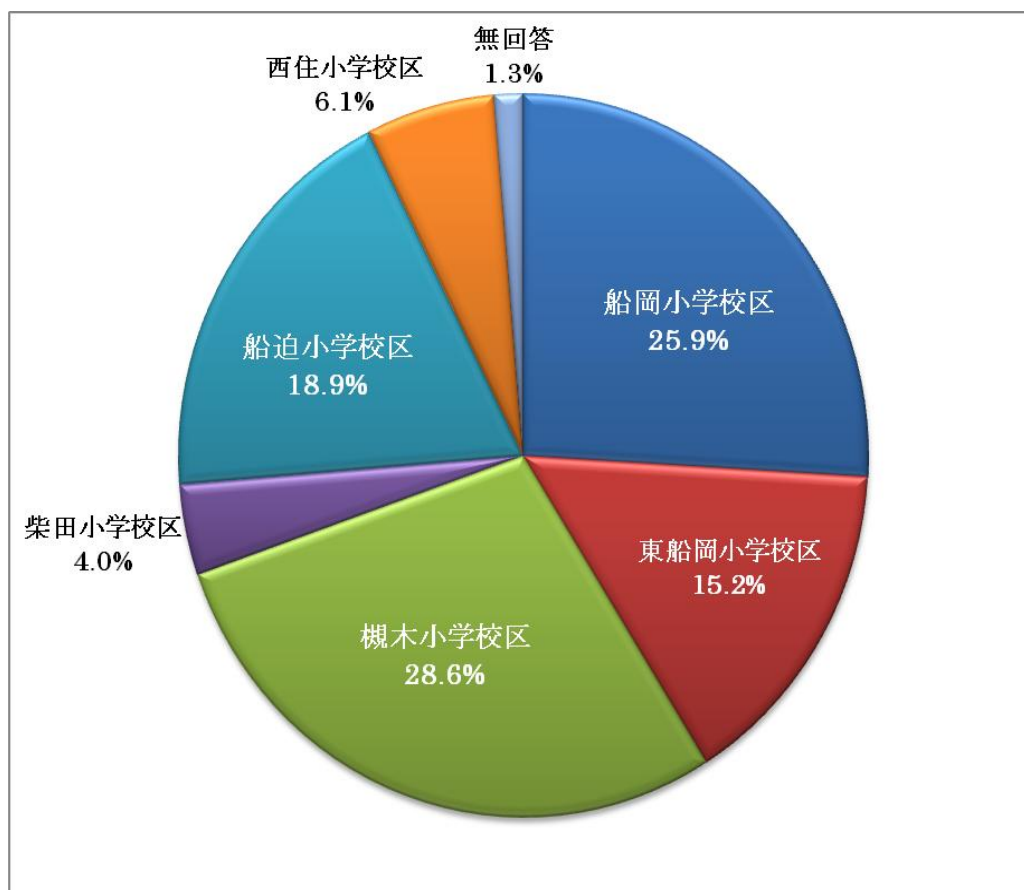


項目名	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
男性 (n=134)	6.7%	9.7%	7.5%	17.2%	34.3%	24.6%
女性 (n=160)	6.2%	15.0%	13.7%	21.3%	26.9%	16.9%

### (3) 居住地区

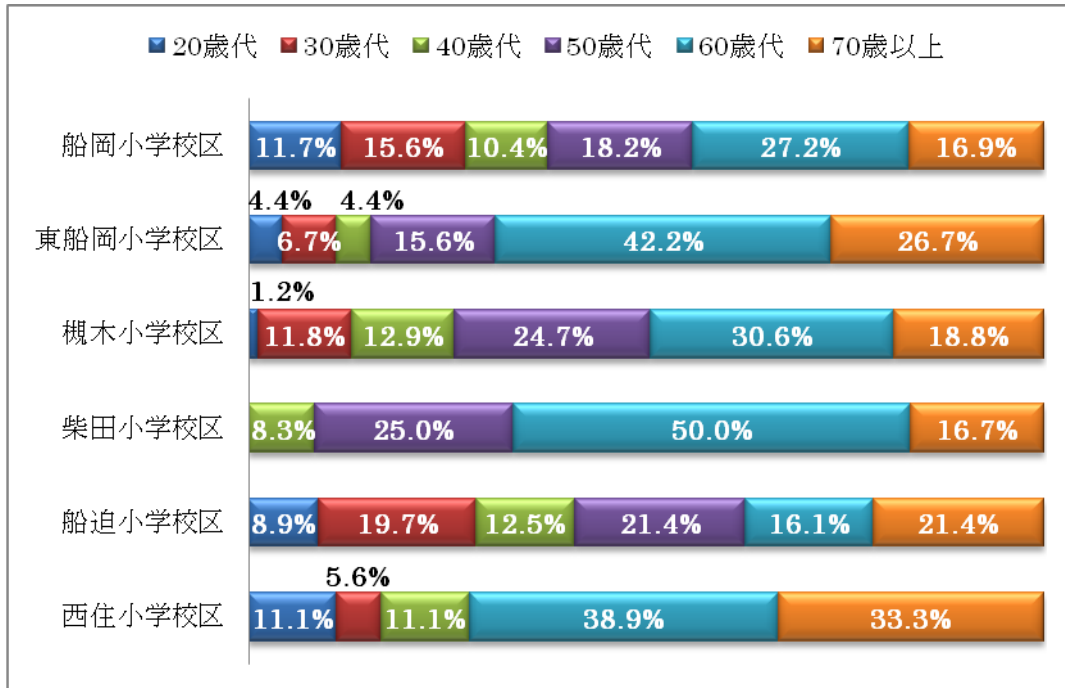
- 居住地区は、「槻木小学校区」が28.6%と最も多く、次いで「船岡小学校区」が25.9%、「船迫小学校区」が18.9%となっています。

図表 居住地区



項目名	回答数	構成比	前回	比較
船岡小学校区	77	25.9%	24.8%	1.1%
東船岡小学校区	45	15.2%	15.0%	0.2%
槻木小学校区	85	28.6%	26.5%	2.1%
柴田小学校区	12	4.0%	4.4%	▲0.4%
船迫小学校区	56	18.9%	25.2%	▲6.3%
西住小学校区	18	6.1%	3.1%	3.0%
無回答	4	1.3%	1.0%	0.3%
計	297	100.0%	100.0%	0.0%

图表 年齢（居住地区別）

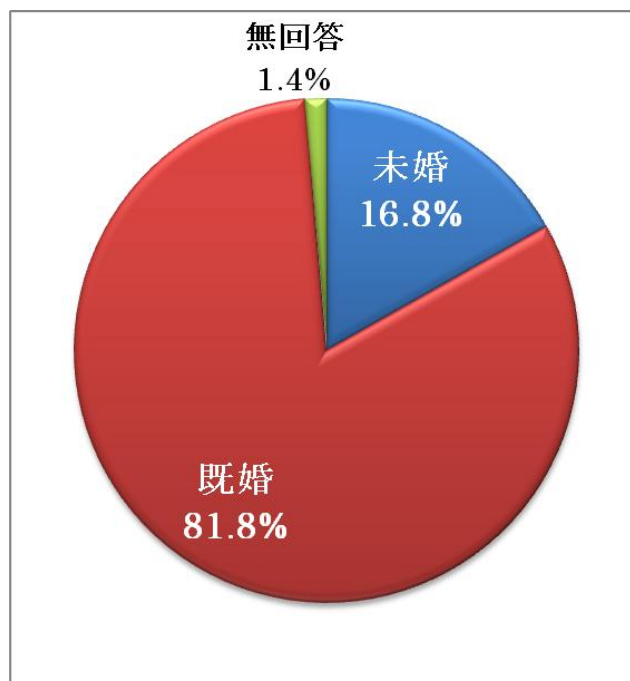


項目名	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
船岡小学校区 (n=77)	11.7%	15.6%	10.4%	18.2%	27.3%	16.9%
東船岡小学校区 (n=45)	4.4%	6.7%	4.4%	15.6%	42.2%	26.7%
槻木小学校区 (n=85)	1.2%	11.8%	12.9%	24.7%	30.6%	18.8%
柴田小学校区 (n=12)	0.0%	0.0%	8.3%	25.0%	50.0%	16.7%
船迫小学校区 (n=56)	8.9%	19.6%	12.5%	21.4%	16.1%	21.4%
西住小学校区 (n=18)	11.1%	5.6%	11.1%	0.0%	38.9%	33.3%

#### (4) 婚姻の有無

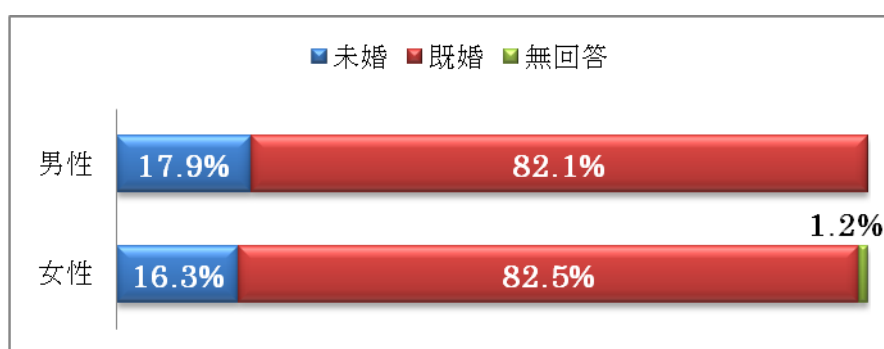
○回答者における「既婚者」の割合は81.8%、「未婚者」は16.8%となりました。

図表 婚姻の有無



項目名	回答数	構成比	前回	比較
未婚	50	16.8%	14.3%	2.5%
既婚	243	81.8%	79.3%	2.5%
無回答 (前は離別・死別含む)	4	1.4%	6.4%	▲5.0%
計	297	100.0%	100.0%	0.0%

図表 未婚・既婚 (性別)

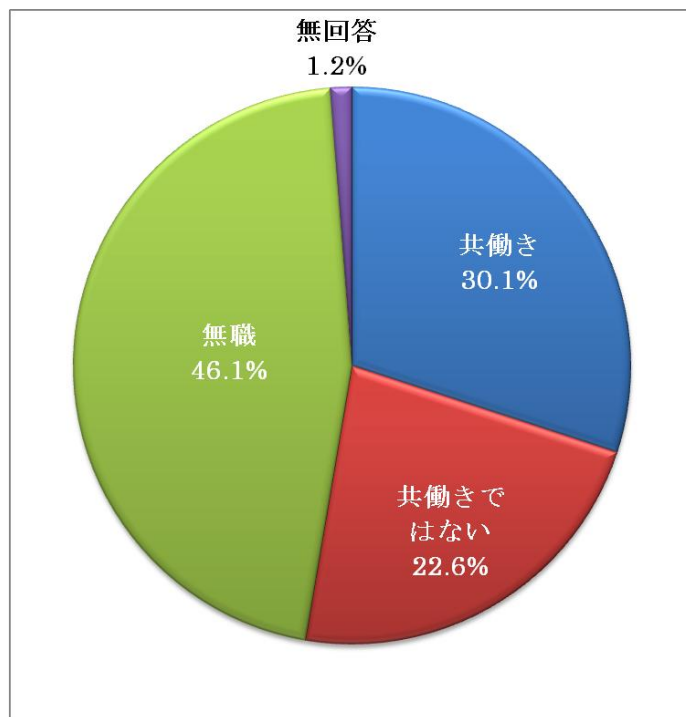


項目名	未婚	既婚	無回答
男性 (n=134)	17.9%	82.1%	0.0%
女性 (n=160)	16.3%	82.5%	1.2%

## (5) 既婚者のみ回答 職業の形態

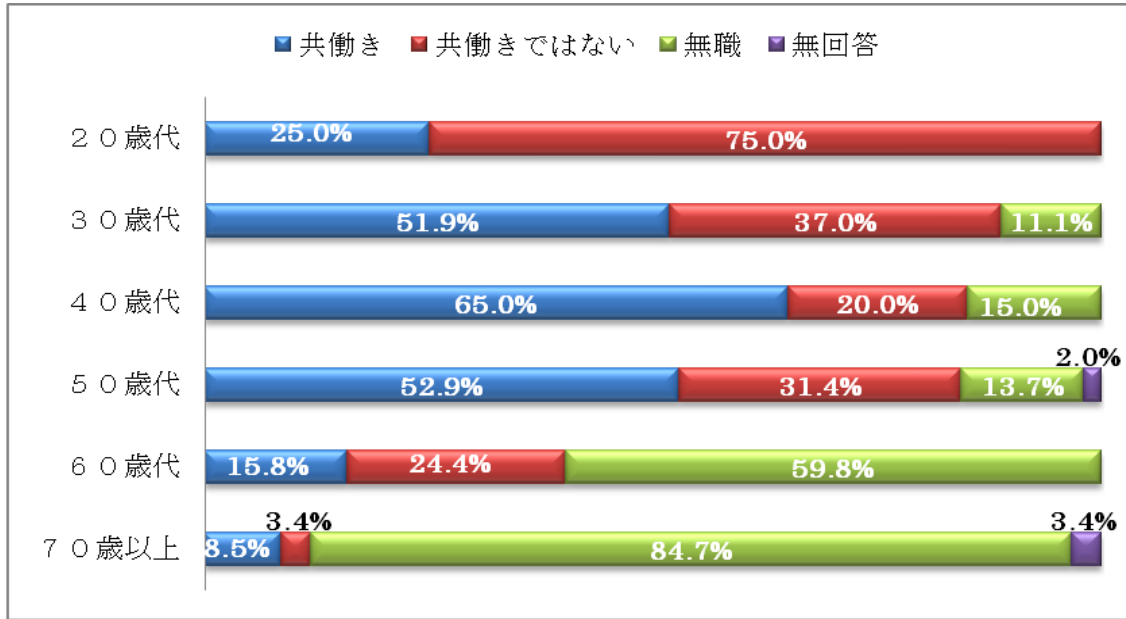
- 「無職」が46.1%で最多となり、次点で「共働き世帯」が30.0%となりました。

図表 婚姻者の職業形態



項目名	回答数	構成比	前回	比較
共働き	73	30.1%	36.9%	▲6.8%
共働きではない	55	22.6%	61.8%	▲39.2%
無職	112	46.1%	0.0%	46.1%
無回答	3	1.2%	1.3%	▲0.1%
計	243	100.0%	100.0%	0.0%

図表 職業形態（年齢別）

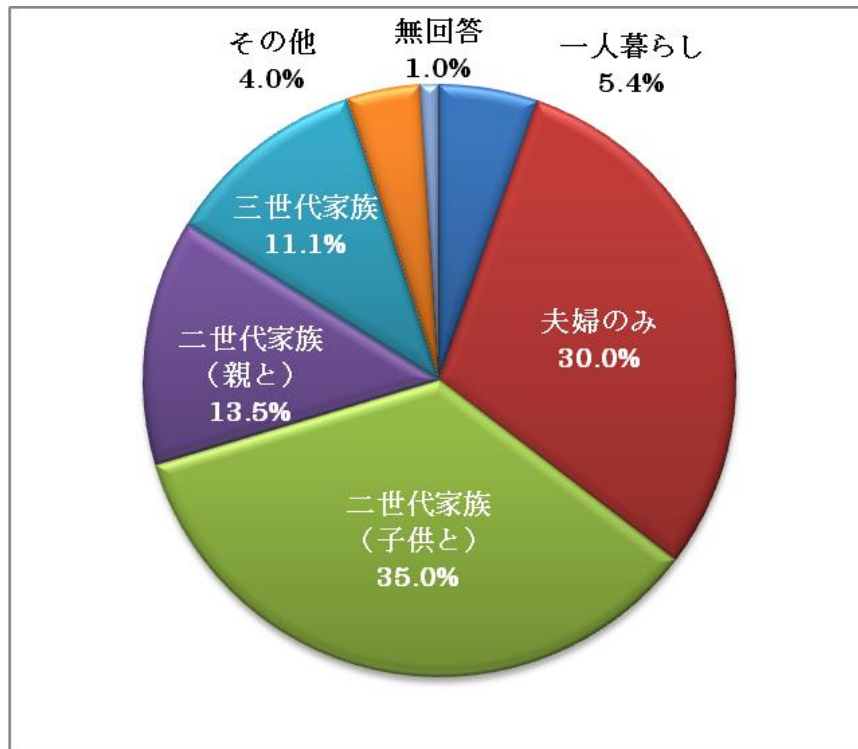


目名	共働き	共働き ではない	無職	無回答
20歳代 (n=19)	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
30歳代 (n=37)	51.9%	37.0%	11.1%	0.0%
40歳代 (n=32)	65.0%	20.0%	15.0%	0.0%
50歳代 (n=57)	52.9%	31.4%	13.7%	2.0%
60歳代 (n=89)	15.8%	24.4%	59.8%	0.0%
70歳以上 (n=61)	8.5%	3.4%	84.7%	3.4%

## (6) 世帯構成

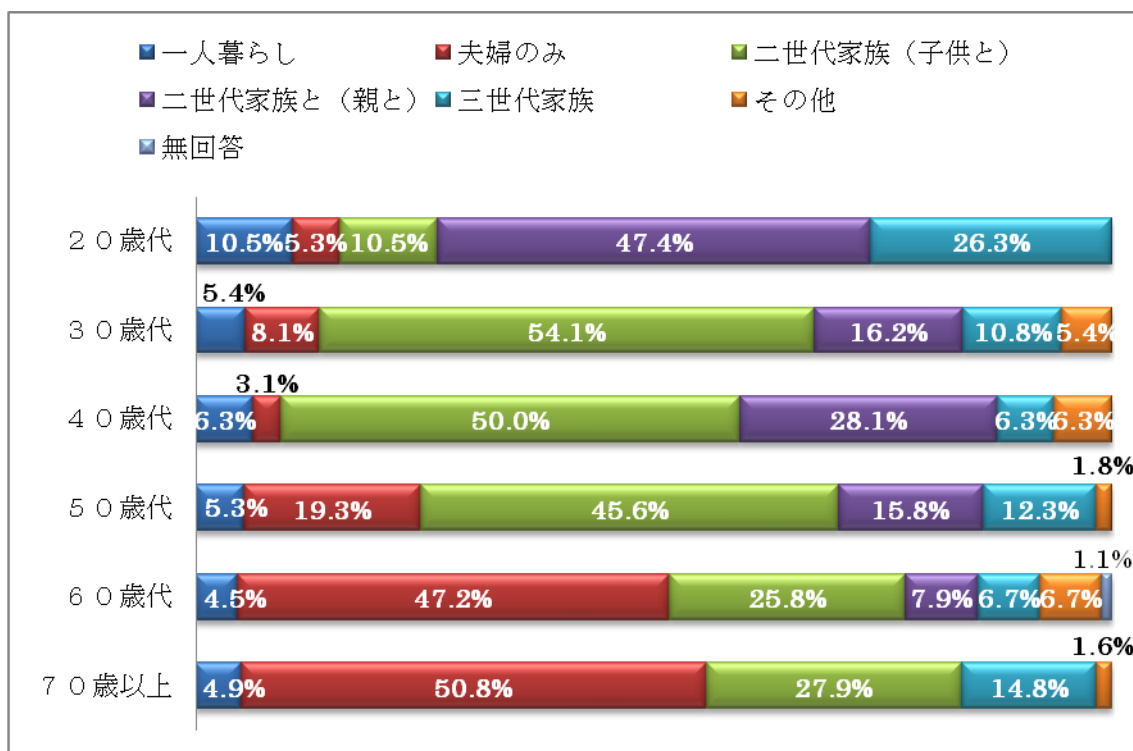
- 「二世帯家族（子供と）」が 35.0%と最多、次点で「夫婦のみ」の世帯が 30.0%となりました。

図表 世帯構成について



項目名	回答数	構成比	前回	比較
一人暮らし	16	5.4%	4.4%	1.0%
夫婦のみ	89	30.0%	21.8%	8.2%
二世帯家族（子供と）	104	35.0%	40.4%	▲5.4%
二世帯家族と（親と）	40	13.5%	15.7%	▲2.2%
三世代家族	33	11.1%	14.6%	▲3.5%
その他	12	4.0%	2.4%	1.6%
無回答	3	1.0%	0.7%	0.3%
計	297	100.0%	100.0%	0.0%

図表 年齢（世帯構成）



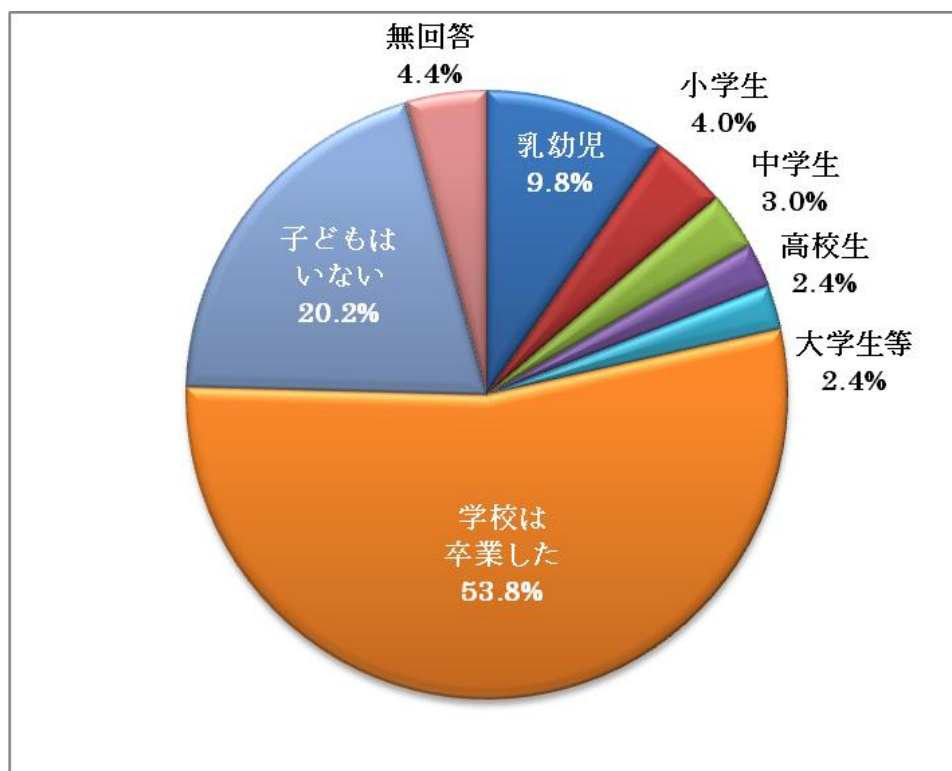
目名	一人暮らし	夫婦のみ	二世世代家族 (子供と)	二世世代家族と (親と)	三世世代家族	その他	無回答
20歳代 (n=19)	10.5%	5.3%	10.5%	47.4%	26.3%	0.0%	0.0%
30歳代 (n=37)	5.4%	8.1%	54.1%	16.2%	10.8%	5.4%	0.0%
40歳代 (n=32)	6.3%	3.1%	50.0%	28.1%	6.3%	6.3%	0.0%
50歳代 (n=57)	5.3%	19.3%	45.6%	15.8%	12.3%	1.8%	0.0%
60歳代 (n=89)	4.5%	47.2%	25.8%	7.9%	6.7%	6.7%	1.1%
70歳以上 (n=61)	4.9%	50.8%	27.9%	0.0%	14.8%	1.6%	0.0%



(7) 子どもの状況

- 子どもがいると回答した人は全体の 75.4%を占めており、子どものいる人の中では、子どもは「学校を卒業した」と回答した人が 53.9%であり、次点で「乳幼児」が 9.8%となっています。

図表 子どもの状況について

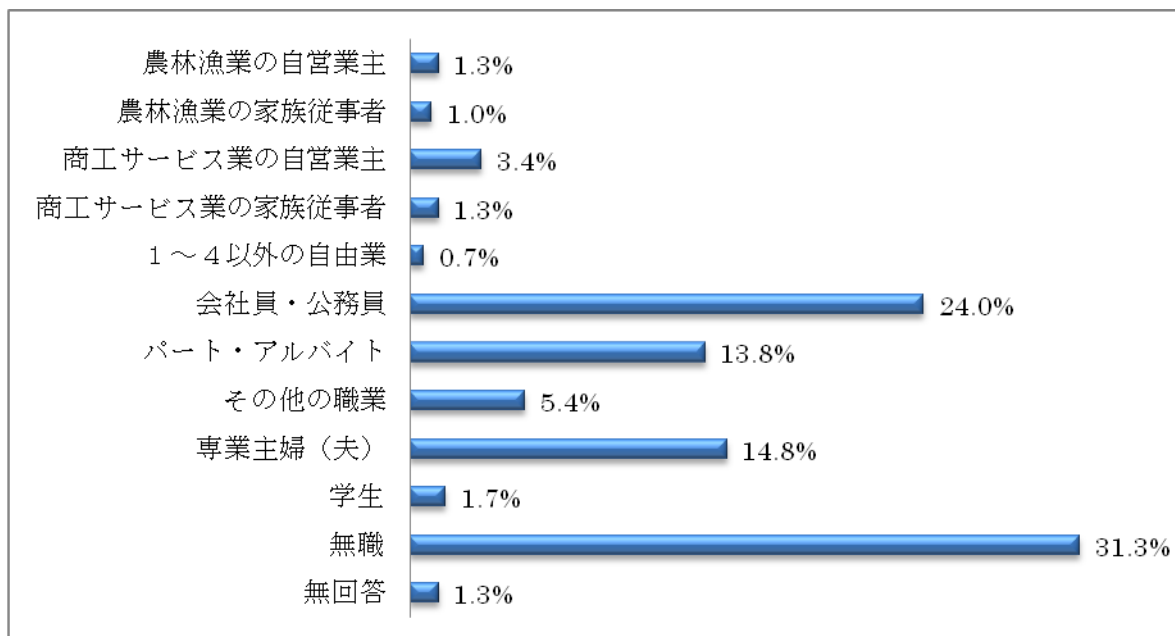


項目名	回答数	構成比	前回	比較
乳幼児	29	9.8%	9.5%	0.3%
小学生	12	4.0%	9.5%	▲5.5%
中学生	9	3.0%	4.1%	▲1.1%
高校生	7	2.4%	3.1%	▲0.7%
大学生等	7	2.4%	2.0%	0.4%
学校は卒業した	160	53.8%	46.9%	6.9%
子どもはいない	60	20.2%	20.8%	▲0.6%
無回答	13	4.4%	4.1%	0.3%
計	297	100.0%	100.0%	0.0%

## (8) 職業

- 就いている職業では、「会社員・公務員」が23.9%、「専業主婦（夫）」が14.8%、「パート・アルバイト」が13.8%の順に上位に挙がっています。
- 「無職」が31.3%と最も多くなっています。

図表 職業



項目名	回答数	構成比
農林漁業の自営業主	4	1.3%
農林漁業の家族従事者	3	1.0%
商工サービス業の自営業主	10	3.4%
商工サービス業の家族従事者	4	1.3%
1～4以外の自由業	2	0.7%
会社員・公務員	71	23.9%
パート・アルバイト	41	13.8%
その他の職業	16	5.4%
専業主婦（夫）	44	14.8%
学生	5	1.7%
無職	93	31.3%
無回答	4	1.3%
計	297	100.0%

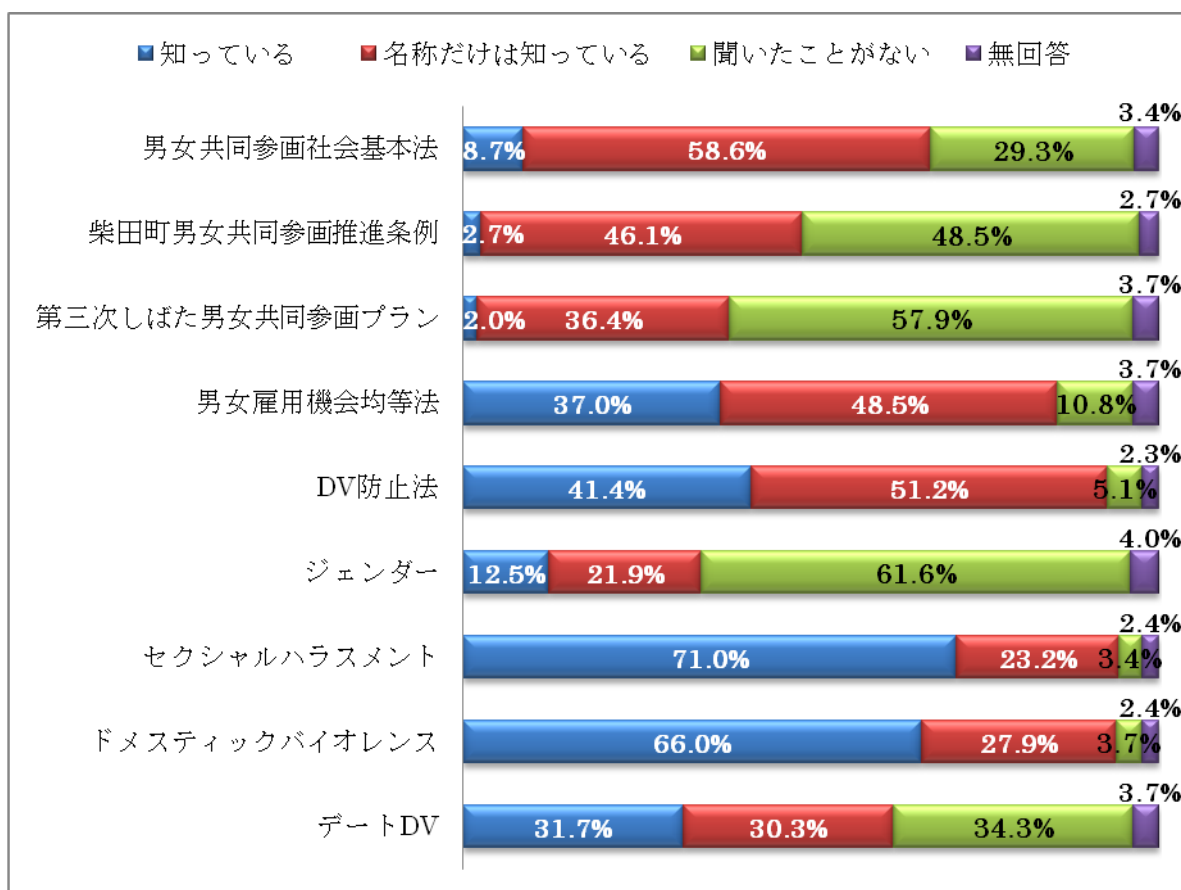
## Ⅱ－２．男女共同参画用語について

### 1. 男女共同参画用語について

問 以下の男女共同参画に関する用語はご存知ですか。

- 「知っている」と「名称だけは知っている」と答えた人がもっとも多かったのは「セクシャルハラスメント」で93.2%となりました。
- もっとも認知度が低かったのは「ジェンダー」で、聞いたことがないと答えた人の割合は61.6%でした。

図表 用語の理解度



項目名	知っている	名称だけは知っている	聞いたことがない	無回答
男女共同参画社会基本法	8.7% (13.9%)	58.6% (42.9%)	29.3% (35.7%)	3.4% (7.5%)
柴田町男女共同参画推進条例	2.7%	46.1%	48.5%	2.7%
第三次しばた男女共同参画プラン	2.0%	36.4%	57.9%	3.7%
男女雇用機会均等法	37.0% (47.6%)	48.5% (39.1%)	10.8% (6.5%)	3.7% (6.8%)
DV防止法	41.4% (39.8%)	51.2% (41.8%)	5.1% (11.6%)	2.3% (6.8%)
ジェンダー	12.5%	21.9%	61.6%	4.0%
セクシャルハラスメント	71.0%	23.2%	3.4%	2.4%
ドメスティックバイオレンス	66.0%	27.9%	3.7%	2.4%
デートDV	31.7%	30.3%	34.3%	3.7%

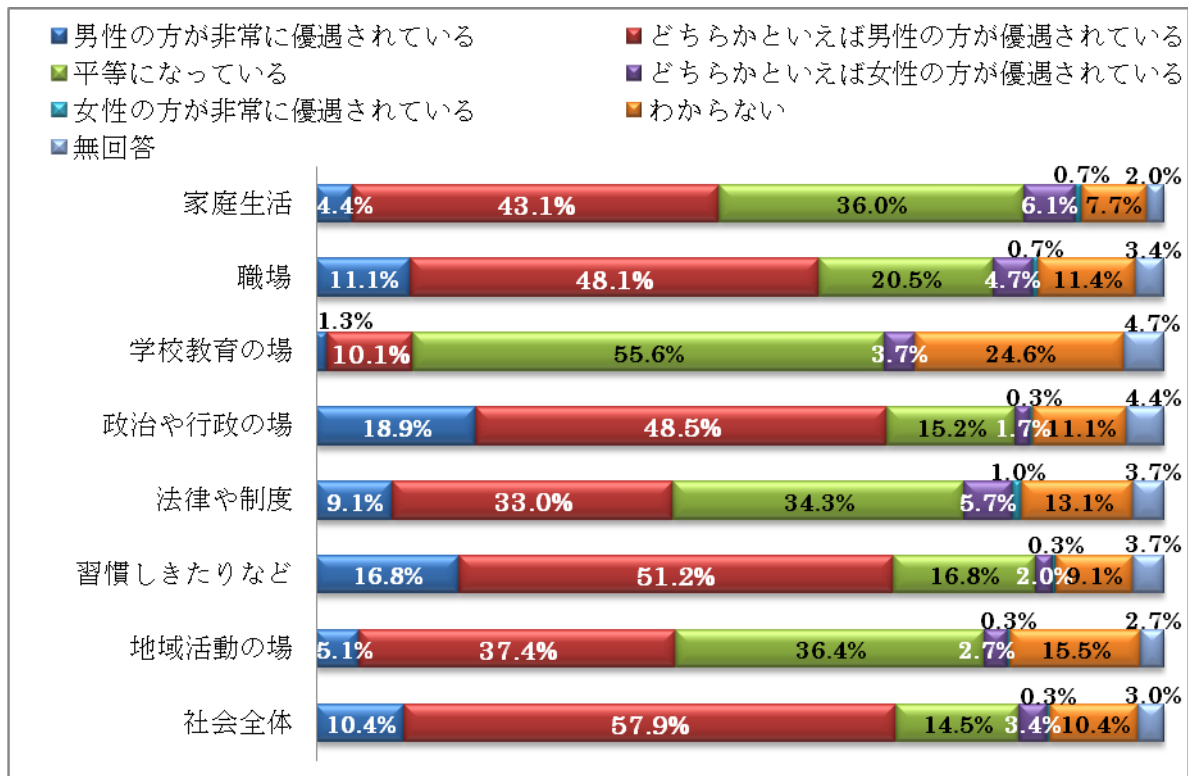
## Ⅱ－３．男女の地位について

### １．男女の地位について

問 現状の男女の地位について、あなたの気持ちに一番近いものを1つ選んでください。

- 平等となっていると答えた人がもっとも多かったものは「学校教育の場」で55.6%でした。
- もっとも「非常に男性が優遇されている」ものととらえられているのとして、「政治や行政の場」で18.9%、対して「女性が非常に優遇されている」ものとして捉えられているものは「法律や制度」で、1%です。全体として、男性が優遇されていると感じている人が大多数を占めています。

図表 男女の地位について



図表 男女の地位について

	男性の 方が非 常に優 遇され ている	どちら かとい えば男 性の方 が優遇 されて いる	平等に なって いる	どちら かとい えば女 性の方 が優遇 されて いる	女性の 方が非 常に優 遇され ている	わから ない	無回答
<b>家庭生活</b>	4.4% (9.9%)	43.1% (46.6%)	36.0% (27.6%)	6.1% (8.2%)	0.7% (1.4%)	7.7% (5.1%)	2.0% (1.4%)
<b>職場</b>	11.1% (14.6%)	48.1% (38.4%)	20.5% (27.2%)	4.7% (3.7%)	0.7% (1.0%)	11.4% (11.9%)	3.4% (3.1%)
<b>学校教育の場</b>	1.3% (0.7%)	10.1% (10.2%)	55.6% (66.3%)	3.7% (3.1%)	0.0% (0.7%)	24.6% (16.3%)	4.7% (2.7%)
<b>政治や 行政の場</b>	18.9% (16.0%)	48.5% (44.2%)	15.2% (24.1%)	1.7% (2.4%)	0.3% (1.0%)	11.1% (10.5%)	4.4% (1.7%)
<b>法律や制度</b>	9.1% (9.5%)	33.0% (27.2%)	34.3% (42.9%)	5.7% (4.4%)	1.0% (1.7%)	13.1% (11.6%)	3.7% (2.7%)
<b>習慣・しきたり など</b>	16.8% (19.7%)	51.2% (47.3%)	16.8% (18.0%)	2.0% (2.0%)	0.3% (0.7%)	9.1% (9.2%)	3.7% (3.1%)
<b>地域活動の場</b>	5.1% (9.9%)	37.4% (43.5%)	36.4% (27.2%)	2.7% (3.4%)	0.3% (0.7%)	15.5% (13.3%)	2.7% (2.0%)
<b>社会全体</b>	10.4% (12.9%)	57.9% (52.7%)	14.5% (18.4%)	3.4% (5.1%)	0.3% (1.4%)	10.4% (7.8%)	3.0% (1.7%)

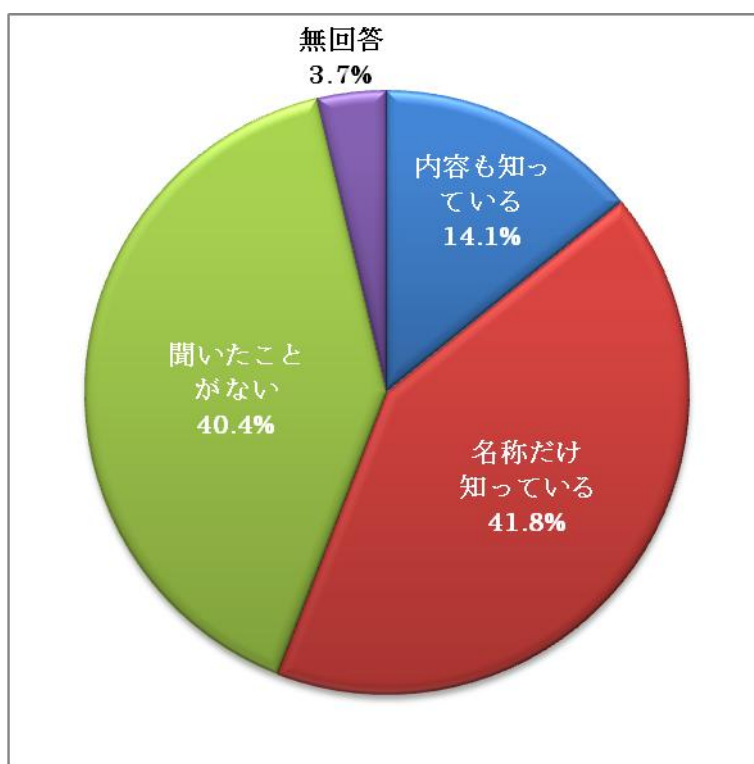
## Ⅱ－４．仕事と生活の調和について

### 1. ワーク・ライフ・バランスについて

問 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）という言葉をご存じですか？

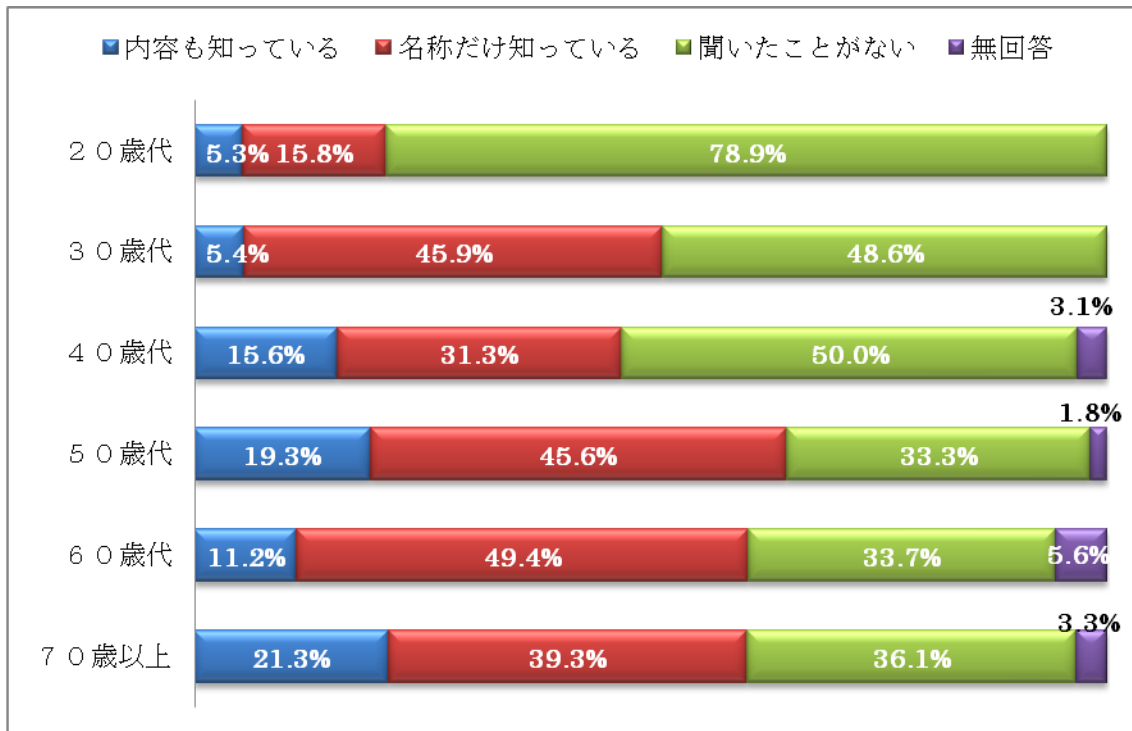
- 「内容も知っている」と答えた人が 14.1% 「名称のみ知っている」と答えた人は 41.8%になりました。

図表 ワーク・ライフ・バランスの認知度



項目名	回答数	構成比
内容も知っている	42	14.1%
名称だけ知っている	124	41.8%
聞いたことがない	120	40.4%
無回答	11	3.7%
計	297	100.0%

図表 年齢（ワーク・ライフ・バランスの認知度）



目名	内容も知っている	名称だけ知っている	聞いたことがない	無回答
20歳代 (n=19)	5.3%	15.8%	78.9%	0.0%
30歳代 (n=37)	5.4%	45.9%	48.6%	0.0%
40歳代 (n=32)	15.6%	31.3%	50.0%	3.1%
50歳代 (n=57)	19.3%	45.6%	33.3%	1.8%
60歳代 (n=89)	11.2%	49.4%	33.7%	5.6%
70歳以上 (n=61)	21.3%	39.3%	36.1%	3.3%

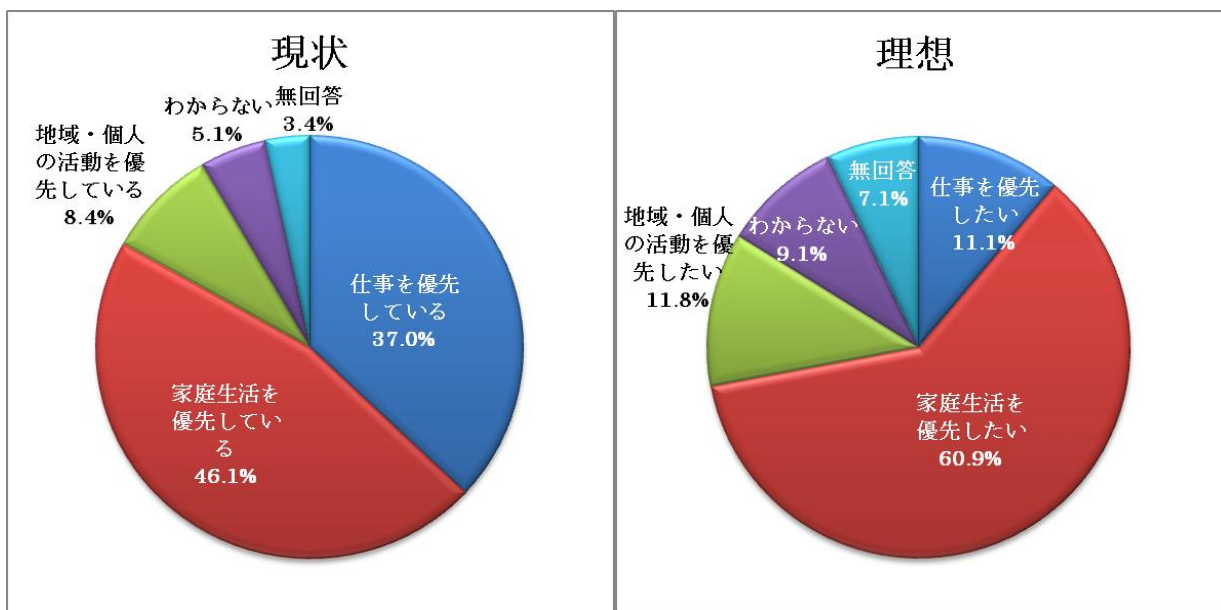


## 2. 生活の優先度について

問 生活の中で「仕事」「家庭」「地域・個人活動」の現状と理想の優先度について、あなたの気持ちに一番近いものを一つ選び、回答欄に○を記入してください。

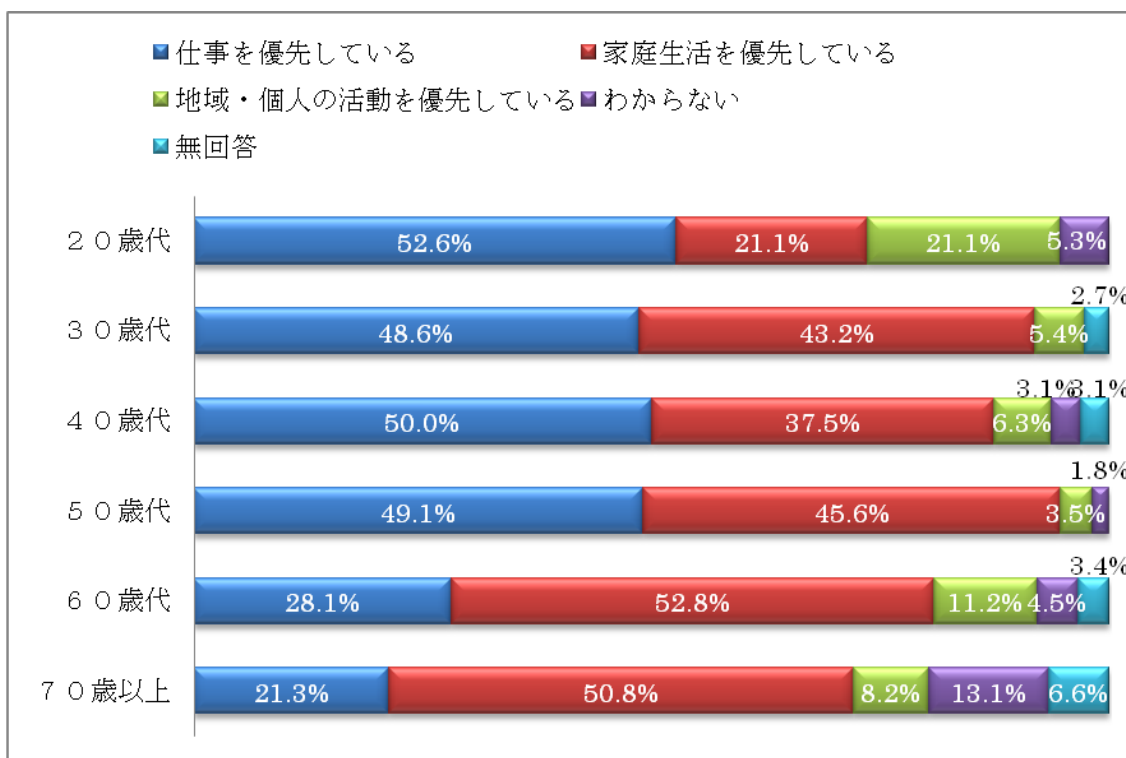
- 「現状」と「理想」の変化が大きく見られたのは、「仕事を優先している」と「家庭生活を優先している」の二項目です。「理想」では家庭生活を優先したいと答える人が60.9%と半数を超得る人が優先したいと考えているようです。

図表 仕事・生活の優先度



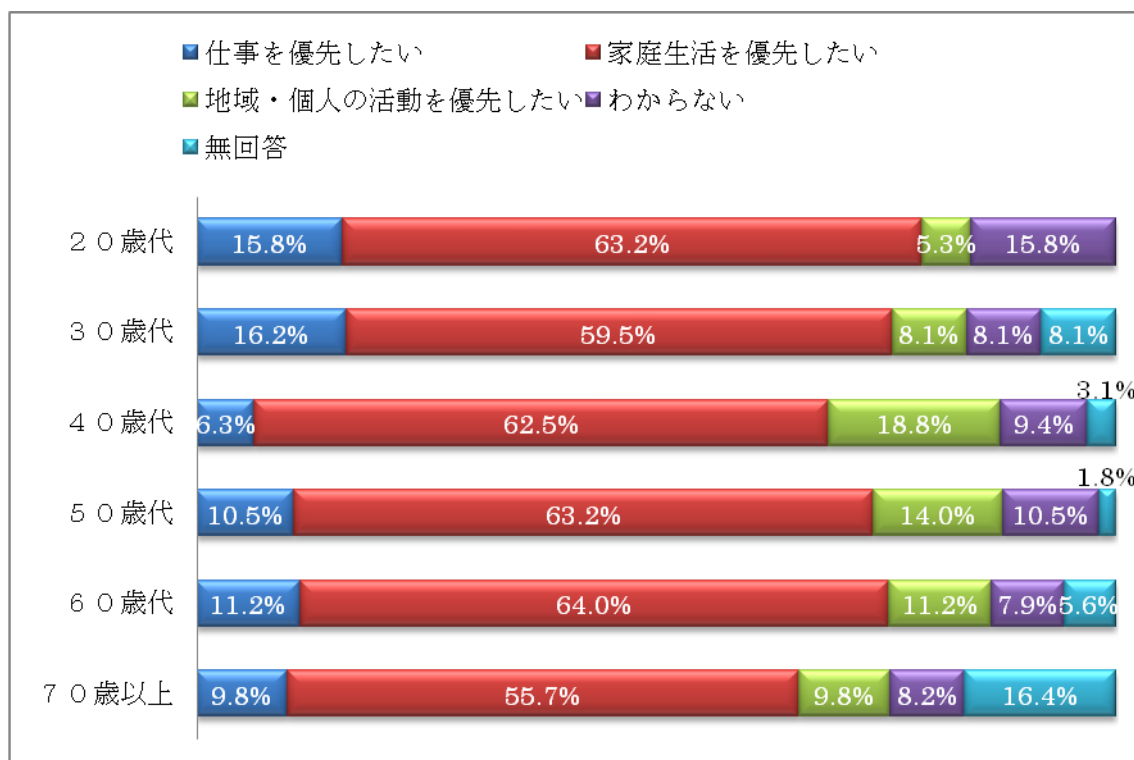
現状		理想	
仕事を優先している	37.0%	仕事を優先したい	11.1%
家庭生活を優先している	46.1%	家庭生活を優先したい	60.9%
地域・個人の活動を優先している	8.4%	地域・個人の活動を優先したい	11.8%
わからない	5.1%	わからない	9.1%
無回答	3.4%	無回答	7.1%

図表 年齢（仕事・生活の優先度：現状）



目名	仕事を優先している	家庭生活を優先している	地域・個人の活動を優先している	わからない	無回答
20歳代 (n=19)	52.6%	21.1%	21.1%	5.3%	0.0%
30歳代 (n=37)	48.6%	43.2%	5.4%	0.0%	2.7%
40歳代 (n=32)	50.0%	37.5%	6.3%	3.1%	3.1%
50歳代 (n=57)	49.1%	45.6%	3.5%	1.8%	0.0%
60歳代 (n=89)	28.1%	52.8%	11.2%	4.5%	3.4%
70歳以上 (n=61)	21.3%	50.8%	8.2%	13.1%	6.6%

図表 年齢（仕事・生活の優先度：理想）



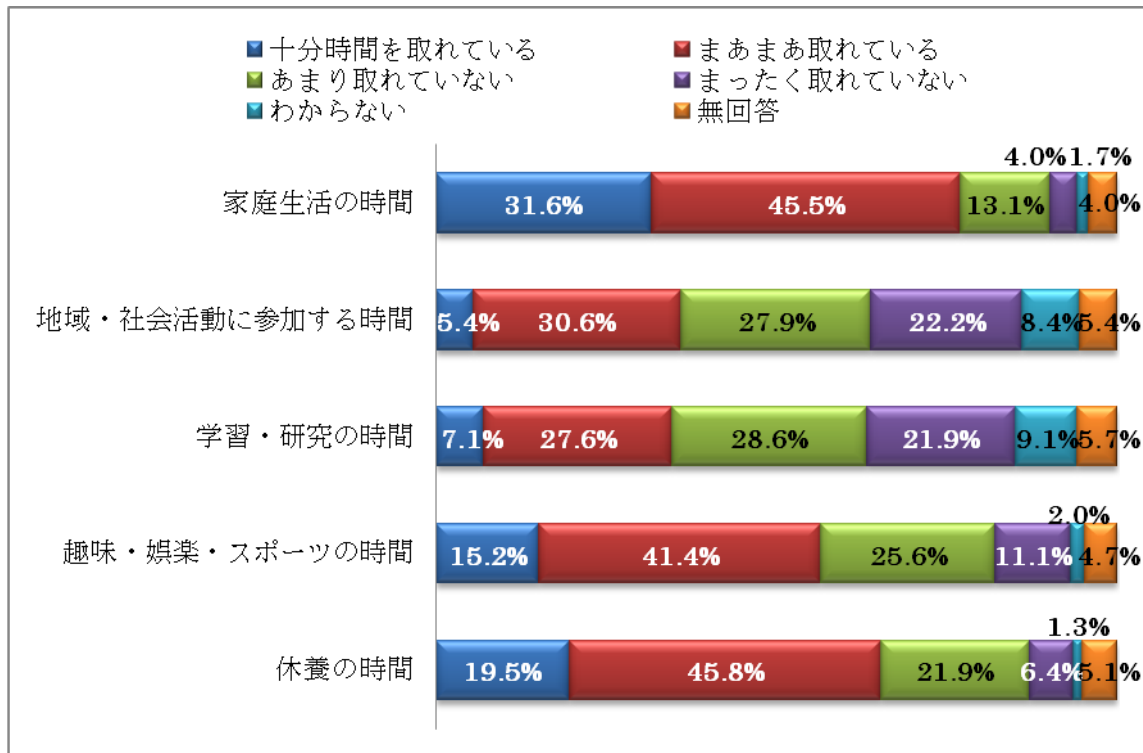
目名	仕事を優先したい	家庭生活を優先したい	地域・個人の活動を優先したい	わからない	無回答
20歳代 (n=19)	15.8%	63.2%	5.3%	15.8%	0.0%
30歳代 (n=37)	16.2%	59.5%	8.1%	8.1%	8.1%
40歳代 (n=32)	6.3%	62.5%	18.8%	9.4%	3.1%
50歳代 (n=57)	10.5%	63.2%	14.0%	10.5%	1.8%
60歳代 (n=89)	11.2%	64.0%	11.2%	7.9%	5.6%
70歳以上 (n=61)	9.8%	55.7%	9.8%	8.2%	16.4%

### 3. 仕事以外の時間の使い方について

問 あなたは仕事以外の時間を取れていると思いますか。項目ごとにあなたの気持ちに一番近いものを一つ選んでください。

- 「十分時間を取れている」と回答した人がもっとも多かった項目が、「休養の時間」45.8%。もっとも「まったく取れていない」と回答した人が多かった項目は、「地域・社会活動に参加する時間」22.2%となりました。

図表 仕事以外の時間



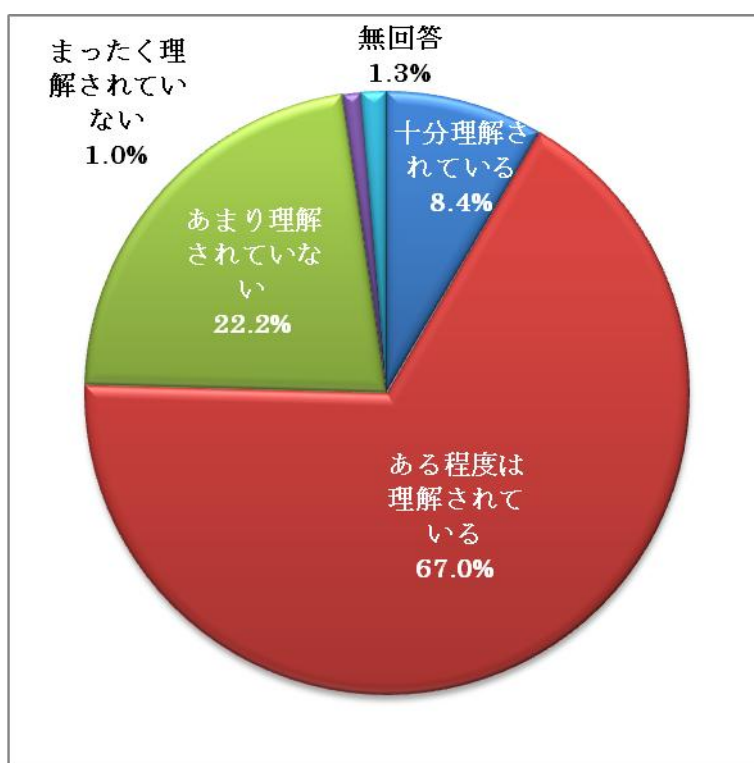
項目名	十分時間を取れている	まあまあ取れている	あまり取れていない	まったく取れていない	わからない	無回答
家庭生活の時間	31.6%	45.5%	13.1%	4.0%	1.7%	4.0%
地域・社会活動に参加する時間	5.4%	30.6%	27.9%	22.2%	8.4%	5.4%
学習・研究の時間	7.1%	27.6%	28.6%	21.9%	9.1%	5.7%
趣味・娯楽・スポーツの時間	15.2%	41.4%	25.6%	11.1%	2.0%	4.7%
休養の時間	19.5%	45.8%	21.9%	6.4%	1.3%	5.1%

#### 4. 女性特有の疾病に関する理解度について

問 あなたは女性特有である、妊娠・出産あるいは子宮がんなどの疾病が社会の中で十分認知されていると思いますか。

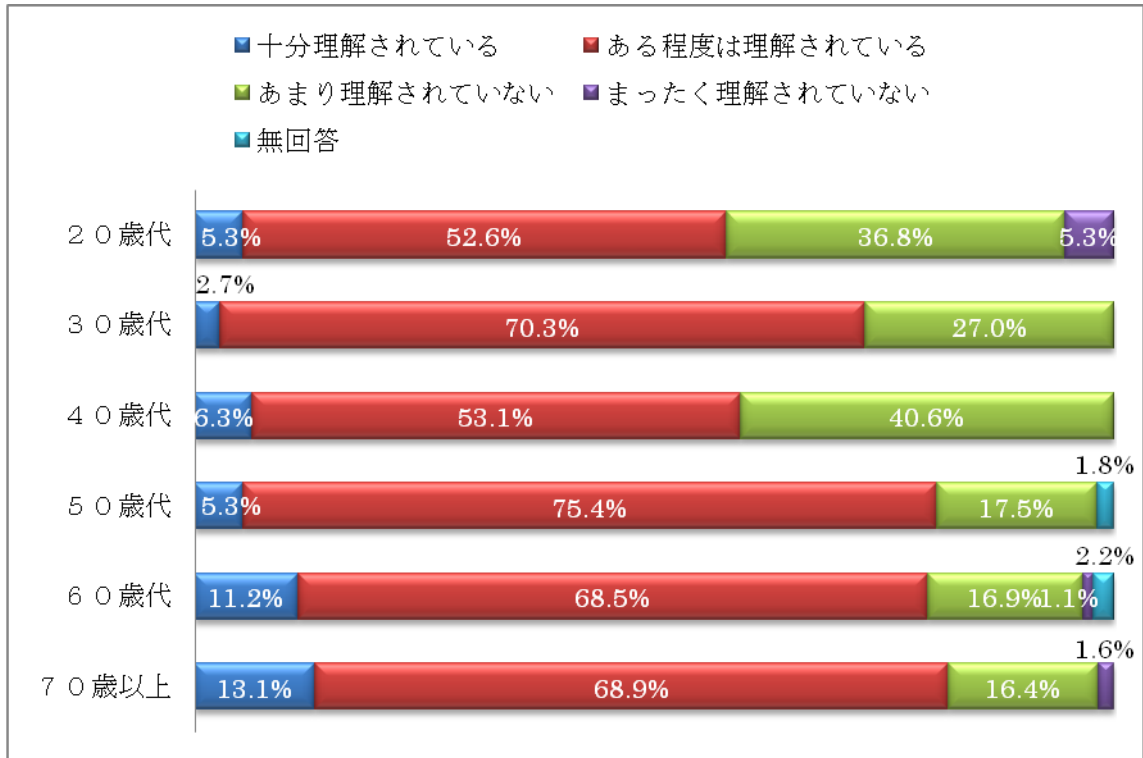
- 「ある程度は理解されている」と回答する人が67.0%、続いて「あまり理解されていない」と回答したのは22.2%、「十分理解されている」と回答した人は8.4%となりました。

図表 女性特有の疾病に対する理解度



項目名	回答数	構成比
十分理解されている	25	8.4%
ある程度は理解されている	199	67.0%
あまり理解されていない	66	22.2%
まったく理解されていない	3	1.0%
無回答	4	1.3%
計	297	100.0%

図表 年齢（女性特有の疾病に対する理解度）



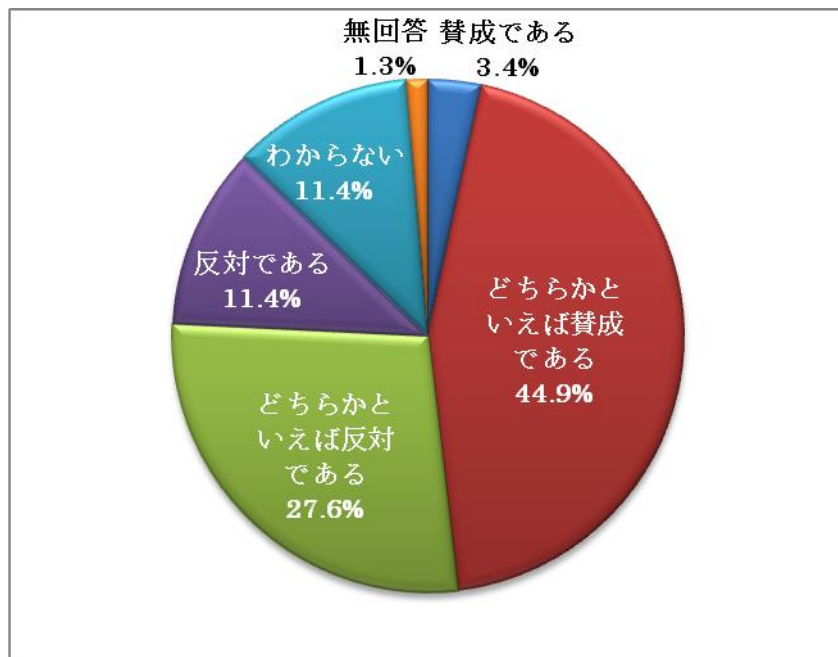
目名	十分理解 されてい る	ある程度 は理解さ れている	あまり理 解されて いない	まったく 理解され ていない	無回答
20歳代 (n=19)	5.3%	52.6%	36.8%	5.3%	0.0%
30歳代 (n=37)	2.7%	70.3%	27.0%	0.0%	0.0%
40歳代 (n=32)	6.3%	53.1%	40.6%	0.0%	0.0%
50歳代 (n=57)	5.3%	75.4%	17.5%	0.0%	1.8%
60歳代 (n=89)	11.2%	68.5%	16.9%	1.1%	2.2%
70歳以上 (n=61)	13.1%	68.9%	16.4%	1.6%	0.0%

## 5. 男女の役割について

問 「男性は仕事・女性は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思われますか。

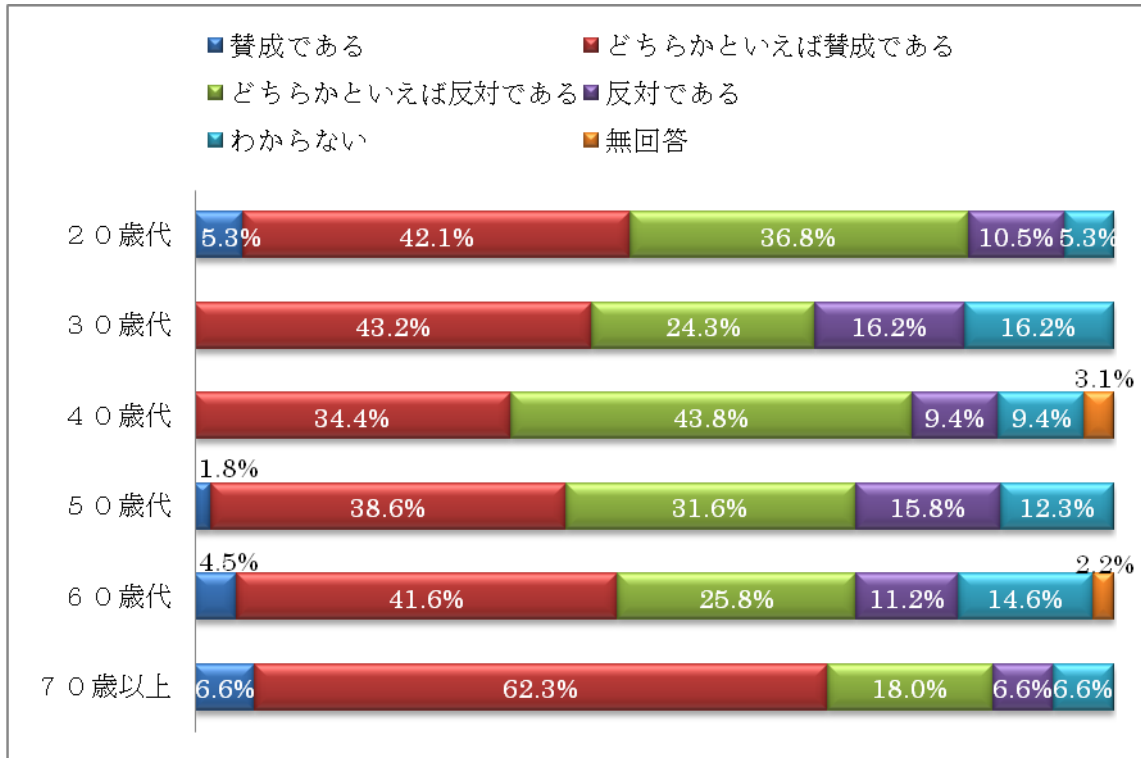
- 『どちらかといえば賛成である』が 44.8%、「どちらかといえば反対である」が 27.6%、「反対である」「わからない」が 11.4%となった。

図表 男女の役割



項目名	回答数	構成比	前回	比較
賛成である	10	3.4%	8.8%	▲5.4%
どちらかといえば賛成である	133	44.9%	35.5%	9.4%
どちらかといえば反対である	82	27.6%	24.1%	3.5%
反対である	34	11.4%	10.2%	1.2%
わからない	34	11.4%	14.3%	▲2.9%
無回答	4	1.3%	7.1%	▲5.8%
計	297	100.0%		

図表 年齢（男女の役割）



目名	賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらかといえば反対である	反対である	わからない	無回答
20歳代 (n=19)	5.3%	42.1%	36.8%	10.5%	5.3%	0.0%
30歳代 (n=37)	0.0%	43.2%	24.3%	16.2%	16.2%	0.0%
40歳代 (n=32)	0.0%	34.4%	43.8%	9.4%	9.4%	3.1%
50歳代 (n=57)	1.8%	38.6%	31.6%	15.8%	12.3%	0.0%
60歳代 (n=89)	4.5%	41.6%	25.8%	11.2%	14.6%	2.2%
70歳以上 (n=61)	6.6%	62.3%	18.0%	6.6%	6.6%	0.0%



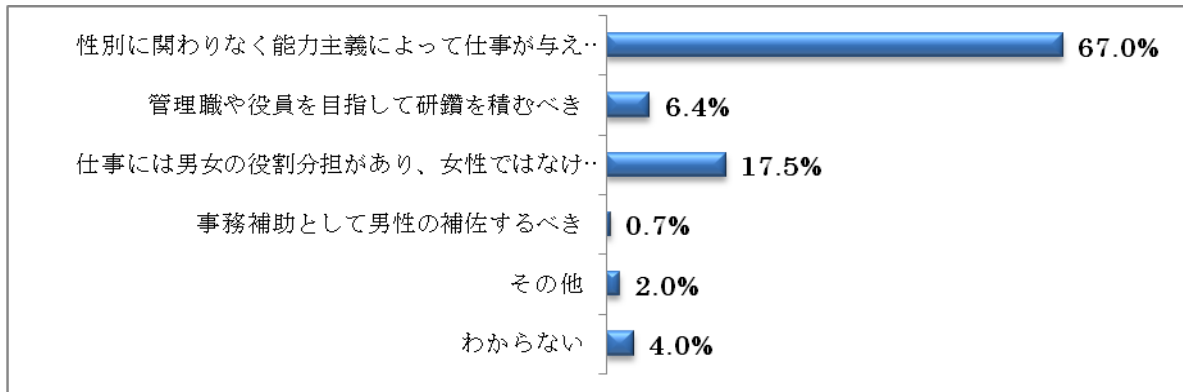
## Ⅱ－５． 仕事について

### 1. 職場での女性の働き方について

問 職場での女性の働き方について、次のうちどれが望ましいと思いますか。

- 「性別に関わりなく能力主義によって仕事が与えられるべき」と回答した人が67.0%、次点で「仕事には男女の役割分担があり、女性ではなげできない仕事をすべき」17.5%となっており、それに続いて「管理職や役員を目指して研鑽を積むべき」との回答が6.4%となっております。

図表 女性の働き方



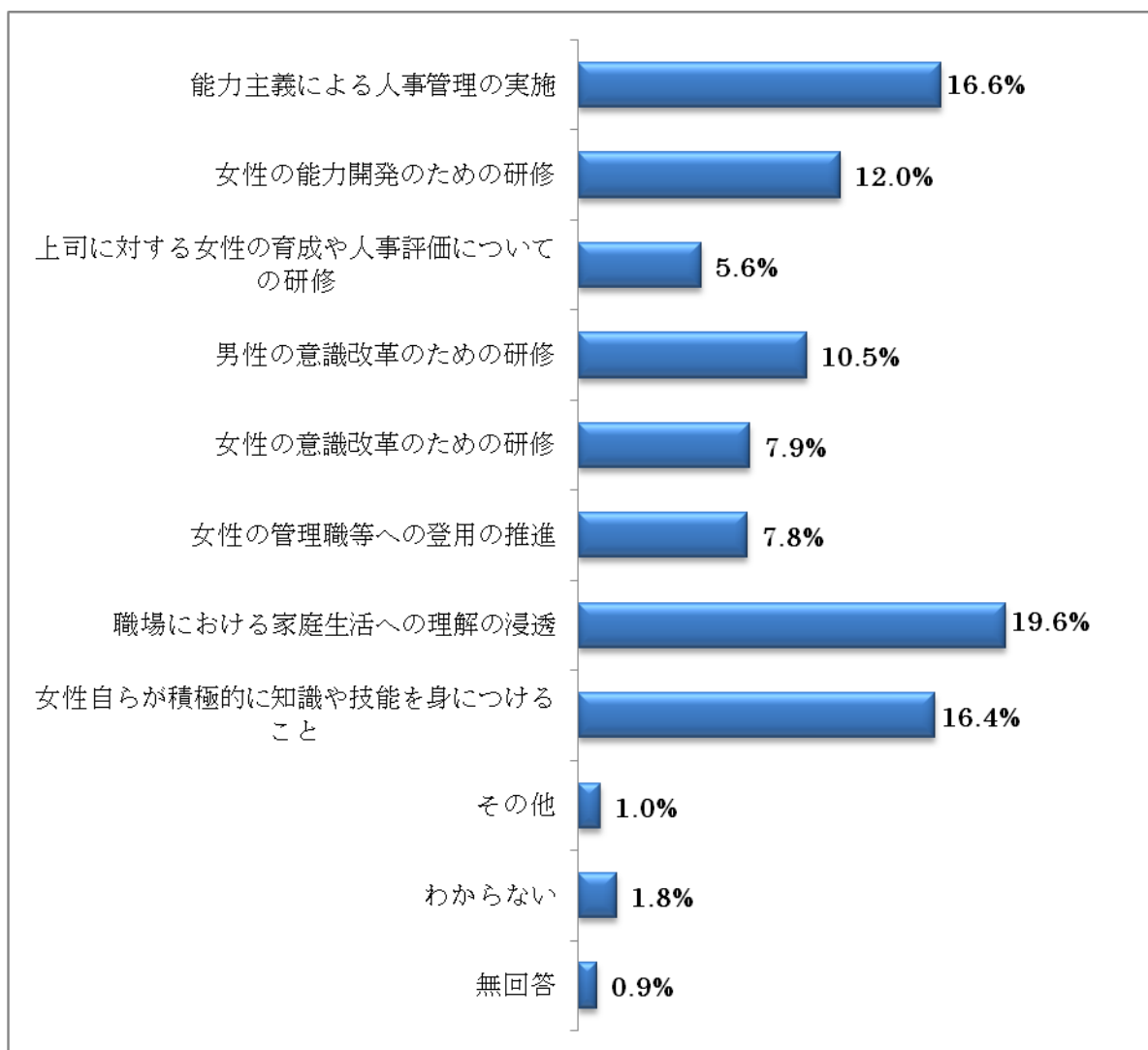
項目名	回答数	構成比
性別に関わりなく能力主義によって仕事が与えられるべき	199	67.0% (56.8%)
管理職や役員を目指して研鑽を積むべき	19	6.4% (1.4%)
仕事には男女の役割分担があり、女性ではなげできない仕事をすべき	52	17.5% (14.6%)
事務補助として男性の補佐するべき	2	0.7% (0.3%)
その他	6	2.0% (11.2%)
わからない	12	4.0% (5.1%)
無回答	7	2.4% (10.5%)
計	297	100.0%

## 2. 女性が職場で能力を発揮するために

問 女性が職場で能力を発揮するためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中から当てはまるものを3つまで選んでください。

- もっとも回答が多かった項目は「職場における家庭生活への理解の浸透」で19.6%となり、次点で「能力主義による人事管理の実施」16.8%、続いて「女性自らが積極的に知識や技能を身につけること」16.4%となり、このような結果となりました。

図表 職場で能力を発揮するために必要なこと（複数回答3つまで）



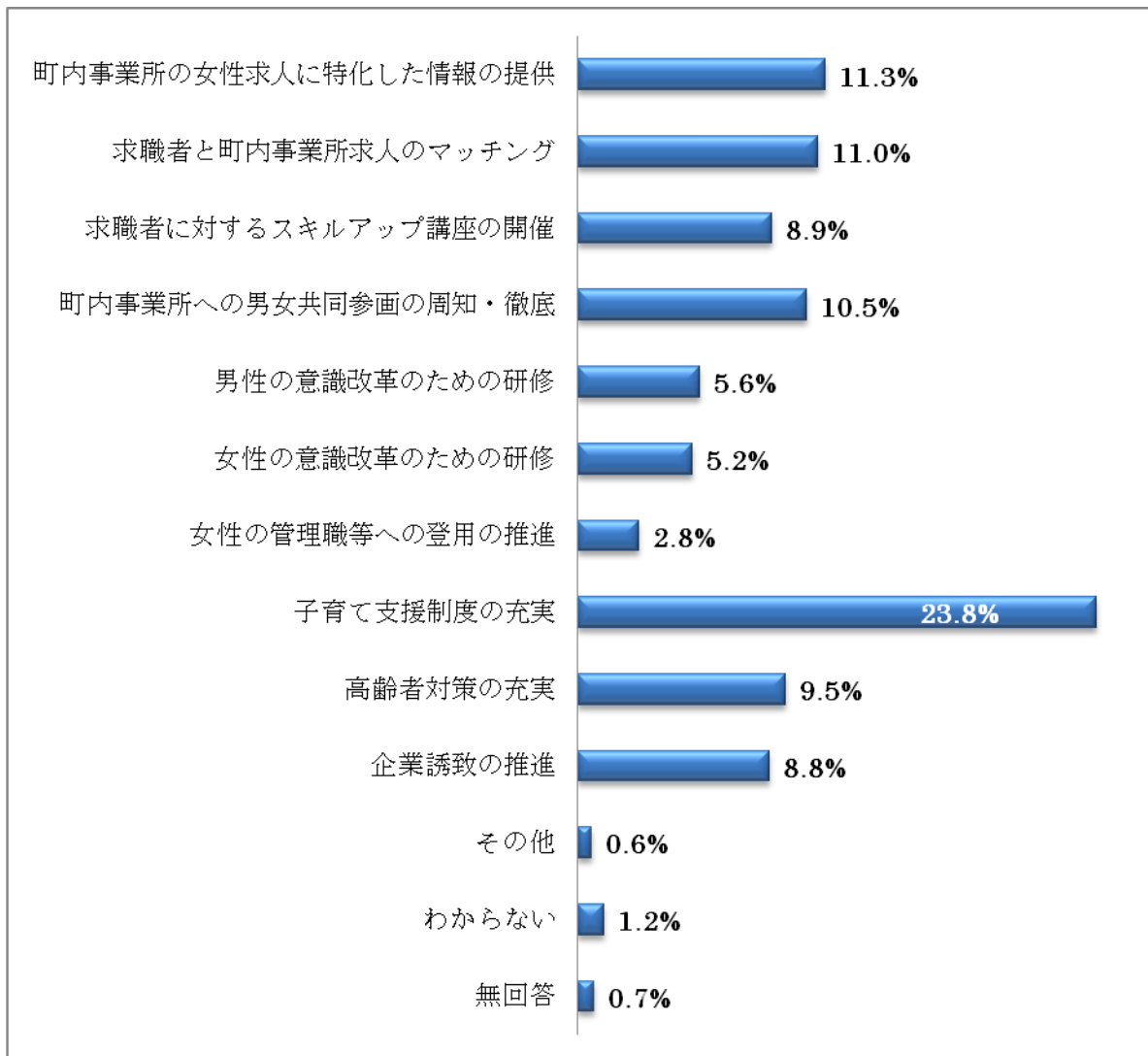
項目名	回答数	構成比
能力主義による人事管理の実施	133	16.6% (15.2%)
女性の能力開発のための研修	96	12.0% (8.7%)
上司に対する女性の育成や人事評価についての研修	45	5.6% (6.0%)
男性の意識改革のための研修	84	10.5% (7.0%)
女性の意識改革のための研修	63	7.9% (6.5%)
女性の管理職等への登用の推進	62	7.8% (5.2%)
職場における家庭生活への理解の浸透	157	19.6% (27.8%)
女性自らが積極的に知識や技能を身につけること	131	16.4% (18.0%)
その他	8	1.0% (0.6%)
わからない	14	1.8% (1.4%)
無回答	7	0.9% (3.7%)
計	800	100.0%

### 3. 女性の雇用拡大について

問 女性の雇用拡大のために、町はどのようなことに取り組みれば良いと思いますか。次の中から当てはまるものを3つまで選んでください。

- 「子育て支援制度の充実」が抜きん出て高く 23.8%となっており、次点では「町内事業所の女性求人に特化した情報の提供」が 11.3%、「求職者と町内事業所求人のマッチング」が 11.0%となり、子育て支援策が求められていることがわかります。

図表 女性の雇用拡大に必要なこと（複数回答3つまで）



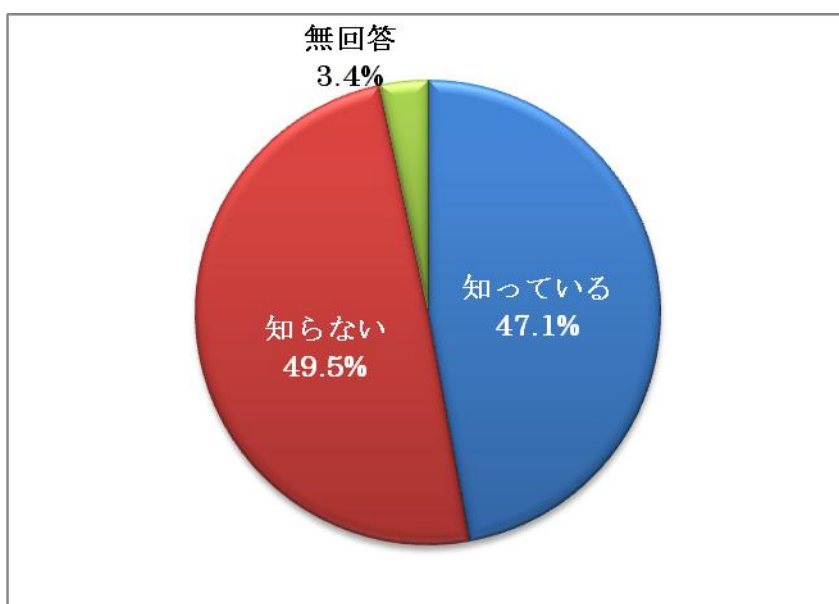
項目名	回答数	構成比
町内事業所の女性求人に特化した情報の提供	93	11.3%
求職者と町内事業所求人のマッチング	90	11.0%
求職者に対するスキルアップ講座の開催	73	8.9%
町内事業所への男女共同参画の周知・徹底	86	10.5%
男性の意識改革のための研修	46	5.6%
女性の意識改革のための研修	43	5.2%
女性の管理職等への登用の推進	23	2.8%
子育て支援制度の充実	195	23.8%
高齢者対策の充実	78	9.5%
企業誘致の推進	72	8.8%
その他	5	0.6%
わからない	10	1.2%
無回答	6	0.7%
計	820	100.0%

## 4. 職場での悩み事相談について

問 職場での悩み事（育児休暇の取得やセクシャルハラスメントなど）について、相談できる窓口があることをご存知でしたか

- 「知っている」47.1%の回答より、「知らない」49.5%と答えた人の割合のほうが2.4%大きかった。

図表 職場の悩み事相談窓口の認知度



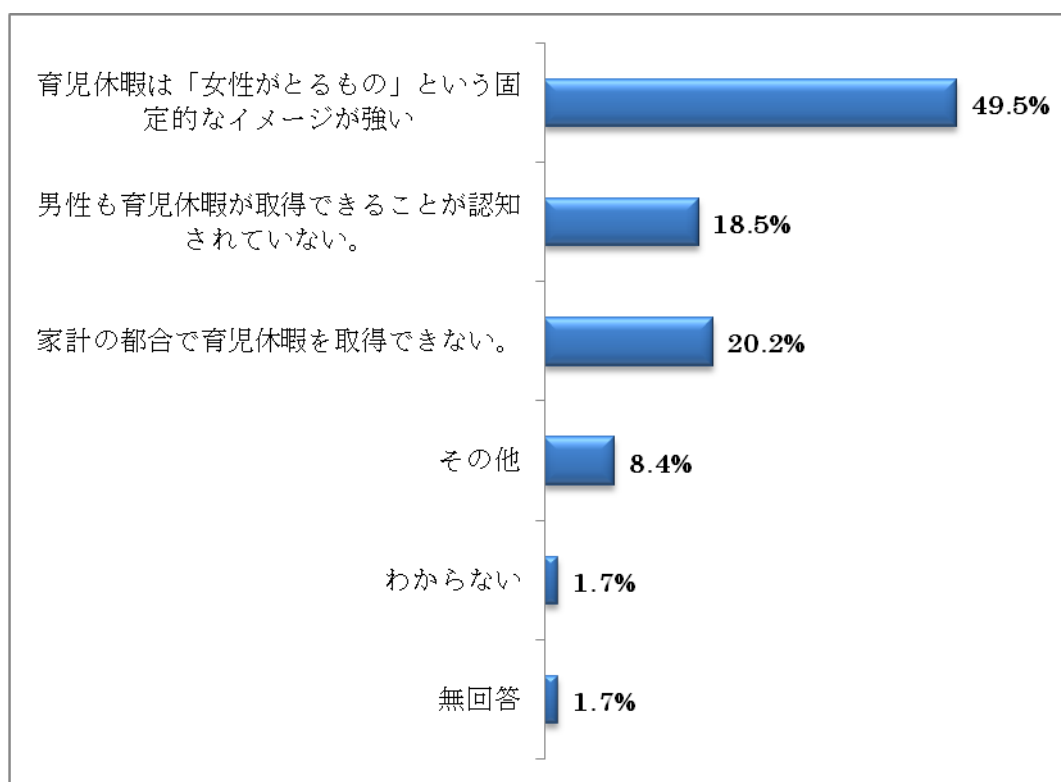
項目名	回答数	構成比
知っている	140	47.1%
知らない	147	49.5%
無回答	10	3.4%
計	297	100.0%

## 5. 男性の育児休暇取得について

問 男性の育児休暇取得は増加傾向にあるものの、女性に比べて多いとは言えません。あなたは、なぜ男性の育児休暇取得率が上がらないと思いますか

- 「育児休暇は「女性がとるもの」という固定的なイメージが強い」という回答が49.5%と全体の半数近くを占めています。次点で「家計の都合で育児休暇を取得できない。」が20.2%、「男性も育児休暇が取得できることが認知されていない。」18.5%と続く結果になりました。

図表 男性の育児休暇取得について。



項目名	回答数	構成比
育児休暇は「女性がとるもの」という固定的なイメージが強い	147	49.5%
男性も育児休暇が取得できることが認知されていない。	55	18.5%
家計の都合で育児休暇を取得できない。	60	20.2%
その他	25	8.4%
わからない	5	1.7%
無回答	5	1.7%
計	297	100.0%

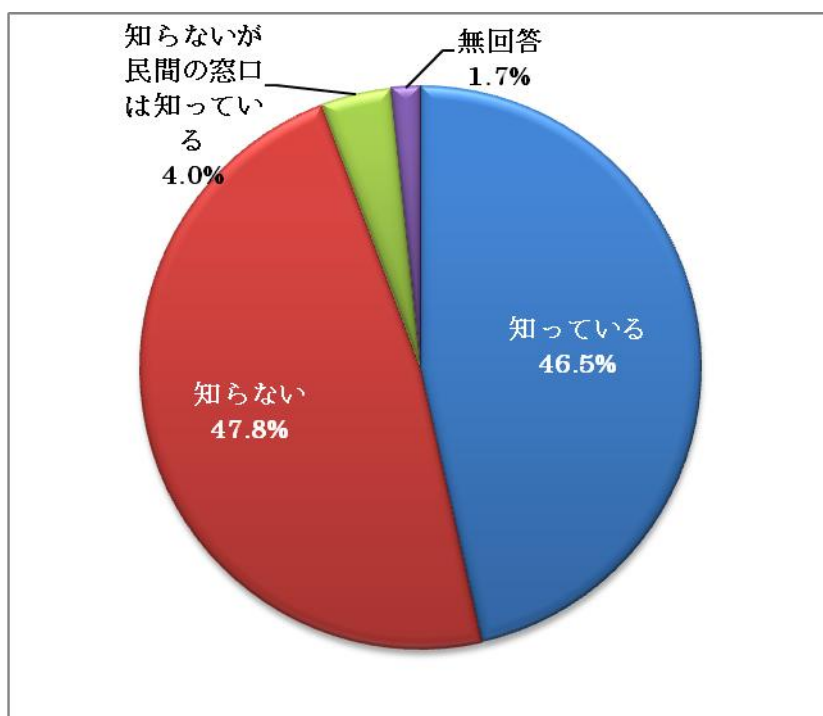
## Ⅱ－５．ドメスティック・バイオレンス(DV)について

### 1. DV相談窓口の認知度について

問 宮城県ではドメスティック・バイオレンスに関する相談窓口を解説していますが、ご存知でしたか

- 「知っている」と答えた人の割合 46.5%より、「知らない」と答えた人の割合 47.8%が多いという結果になりました。

図表 ドメスティックバイオレンス対応窓口の認知度



項目名	回答数	構成比
知っている	138	46.5%
知らない	142	47.8%
知らないが民間の窓口は知っている	12	4.0%
無回答	5	1.7%
計	297	100.0%

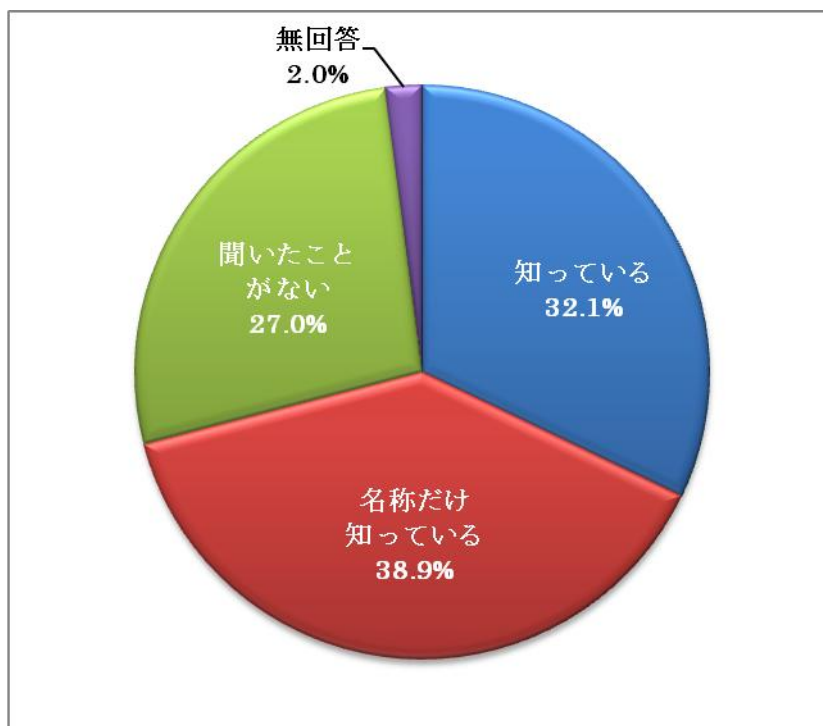


## 2. デートDVについて

問 最近10代、20代の若いカップルの中で起こる「恋人からの暴力（デートDV）」が問題になっていますが、ご存知でしたか

- 「名称のみ知っている」が 38.9%、「知っている」が 32.1%と、「知らない」と回答した人より多く、内容の認知度を上げることが求められる結果になりました。

図表 デートDVの認知度



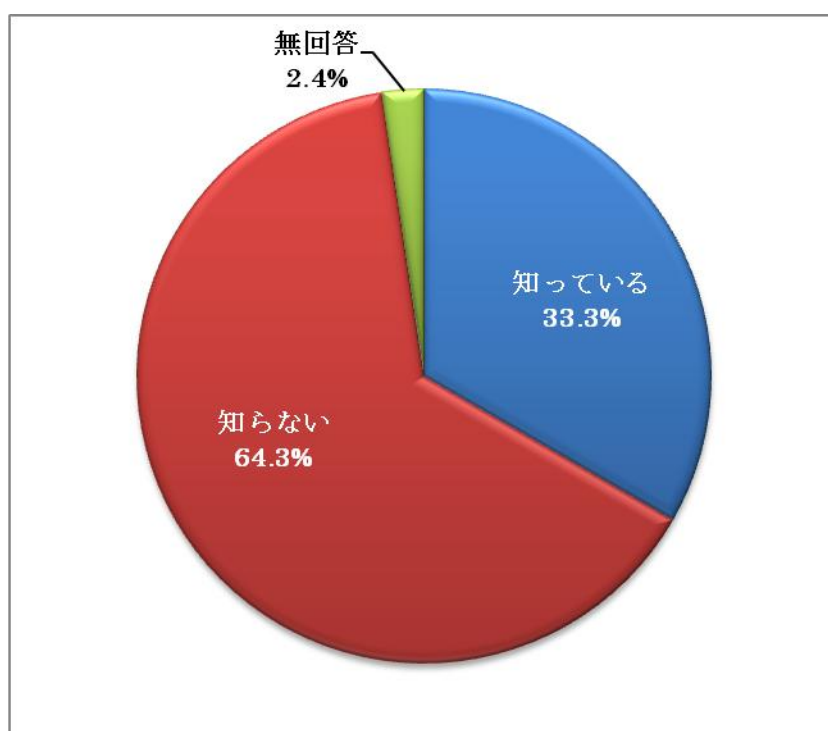
項目名	回答数	構成比
知っている	95	32.1%
名称だけ知っている	115	38.9%
聞いたことがない	80	27.0%
無回答	6	2.0%
計	296	100.0%

### 3. DV防止法の適用範囲拡大について

問 昨年、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)が改正され、その保護の適用範囲が「生活の本拠を共にする交際関係にある相手」にまで拡大されましたが、ご存知でしたか

- 「知らない」との回答が、64.3%、「知っている」との回答が33.3%となっております。

図表 デート DV 法改正の認知度



項目名	回答数	構成比
知っている	99	33.3%
知らない	191	64.3%
無回答	7	2.4%
計	297	100.0%

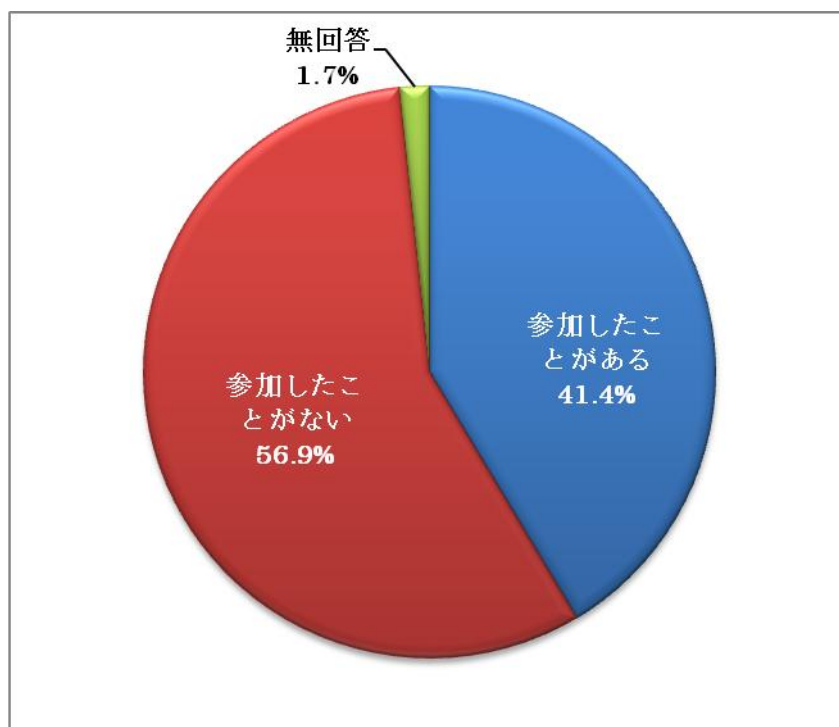
## Ⅱ－6．防災について

### 1．地域の防災訓練への参加状況について

問 あなたはお住まいの地域の防災訓練に参加したことがありますか

- 「参加したことがある」と答えた人の割合 41.4%より、「参加したことがない」と答えた人の割合 56.9%が多いという結果になりました。

図表 地域の防災訓練への参加状況



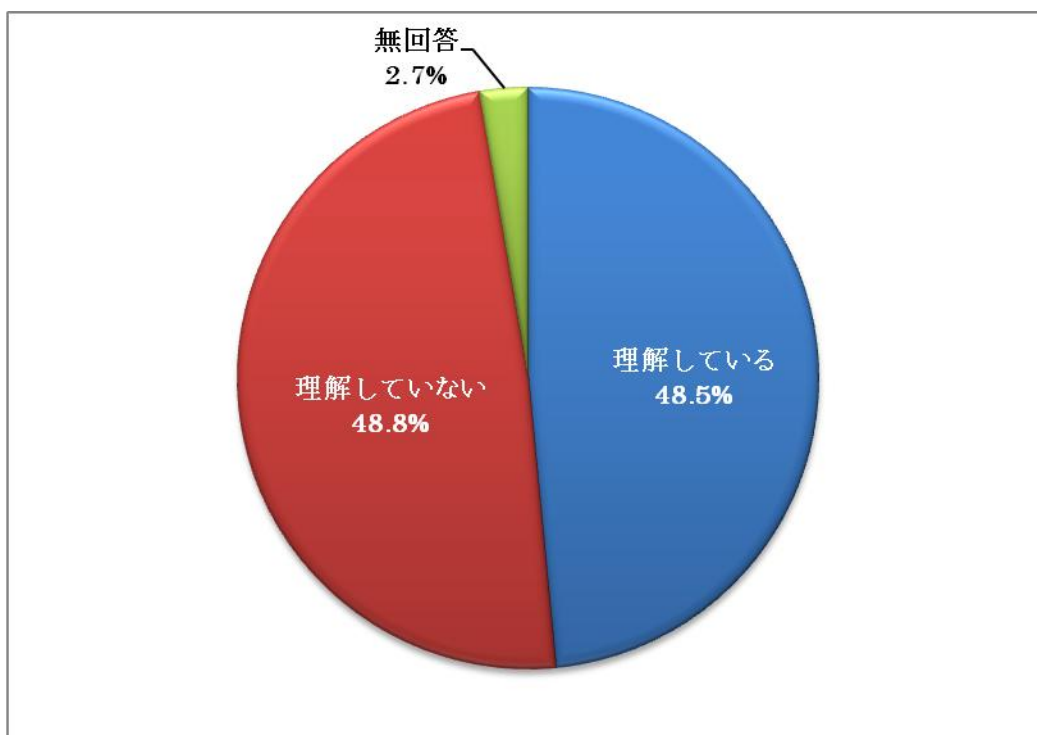
項目名	回答数	構成比
参加したことがある	123	41.4%
参加したことがない	169	56.9%
無回答	5	1.7%
計	297	100.0%

## 2. 非常時における性別の違いによる困難の理解について

問 災害時、男性と女性では避難生活における困難が異なりますが、あなたはこのことを理解していますか。（例：女性の下着を男性が配布していると受け取りにくい）

- 「理解している」と答えた人の割合 48.5%、「理解していない」と答えた人の割合 48.8%とわずかに高いものの、意見が二つに分かれる結果になりました。

図表 災害時の困難についての理解度



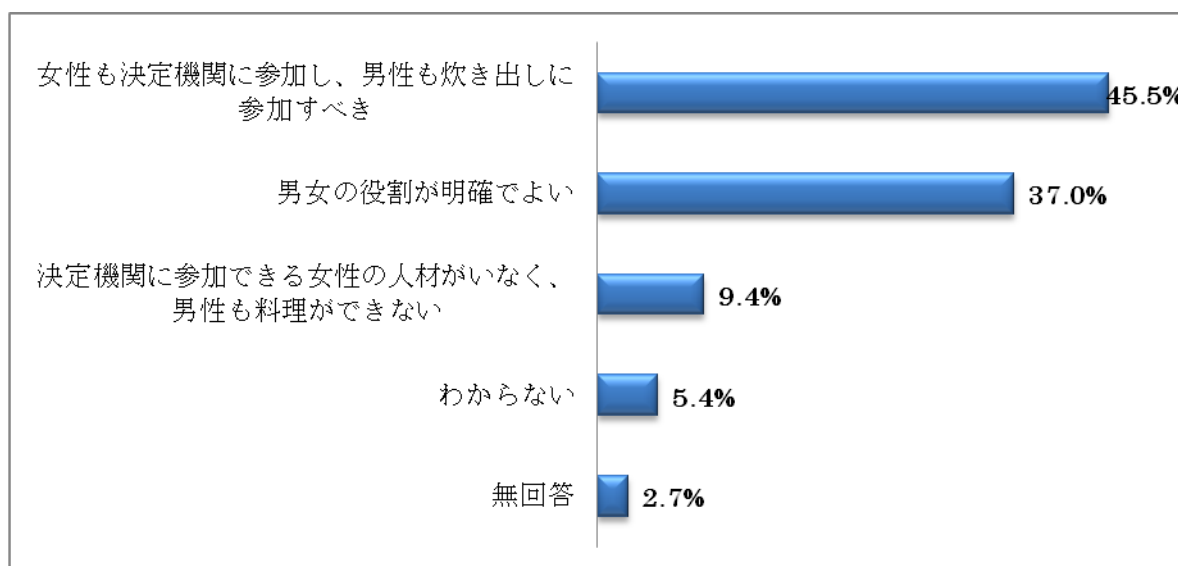
項目名	回答数	構成比
理解している	144	48.5%
理解していない	145	48.8%
無回答	8	2.7%
計	297	100.0%

### 3. 避難所運営における男女の役割について

問 避難所運営では、男性が力仕事や指揮系統を担い、女性が炊き出しをすることが多いですが、あなたはこのことをどう思いますか

- 「女性も決定機関に参加し、男性も炊き出しに参加すべき」と答えた人の割合 45.5%、「男女の役割が明確でよい」と答えた人の割合 37.0%と続き、「決定機関に参加できる女性の人材がいなく、男性も料理ができない。」と答えた人は 9.4%となりました。

図表 災害時の役割分担について



項目名	回答数	構成比
女性も決定機関に参加し、男性も炊き出しに参加すべき	135	45.5%
男女の役割が明確でよい	110	37.0%
決定機関に参加できる女性の人材がいなく、男性も料理ができない	28	9.4%
わからない	16	5.4%
無回答	8	2.7%
計	297	100.0%

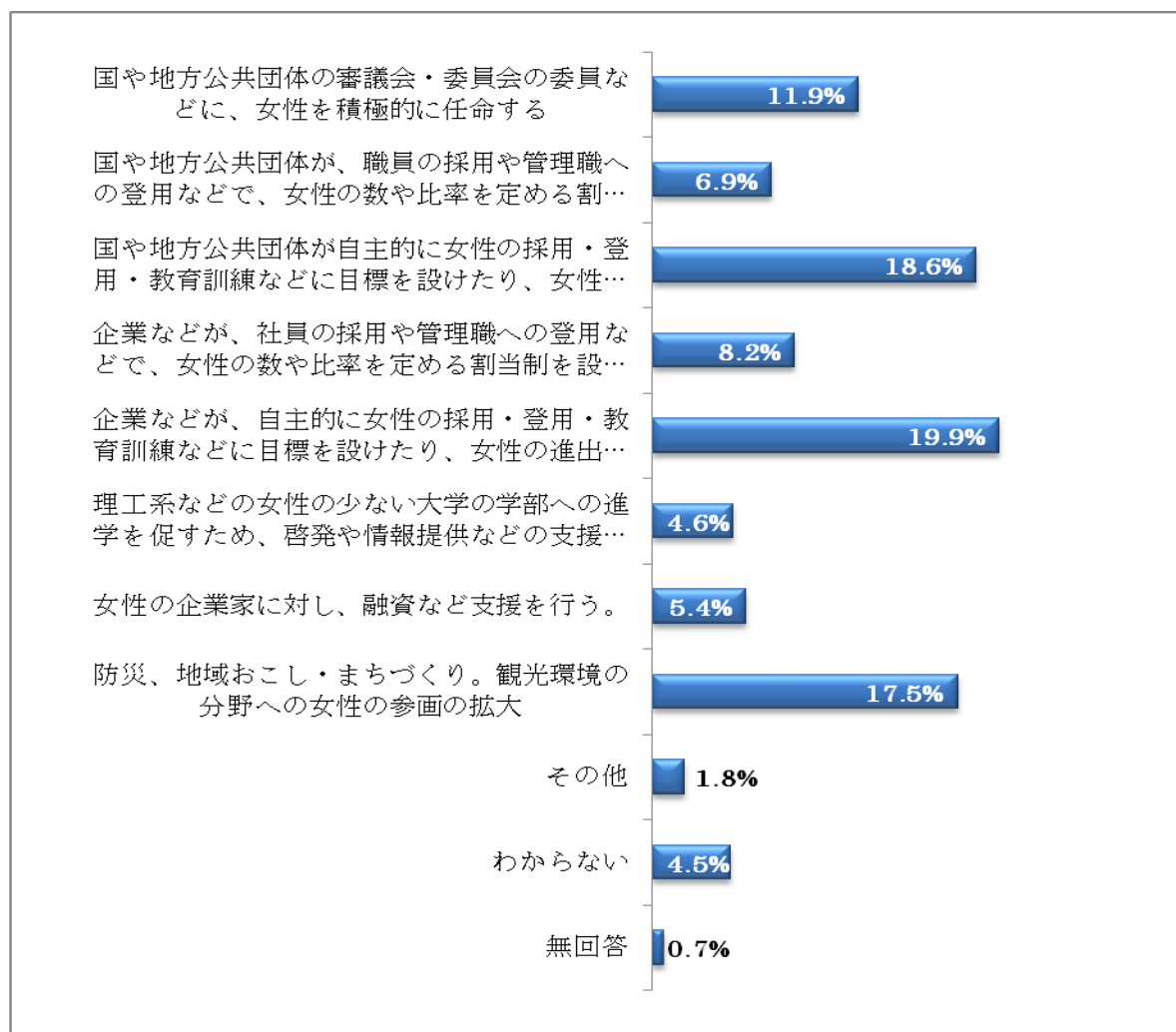
## Ⅱ－７． 社会参加について

### 1. 女性の社会進出について

問 あなたは女性があまり進出していない分野に女性が進出するために、どのような方法をとるのがいいと思いますか。あてはまるものを三つまで選んでください。

- 「企業などが、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する。」と回答した人が 19.9%、次点で「国や地方公共団体が自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する」が 18.6%となっており、それに続いて「防災、地域おこし・まちづくり。観光環境の分野への女性の参画の拡大」との回答が 17.5%となっております。

図表 女性の社会進出



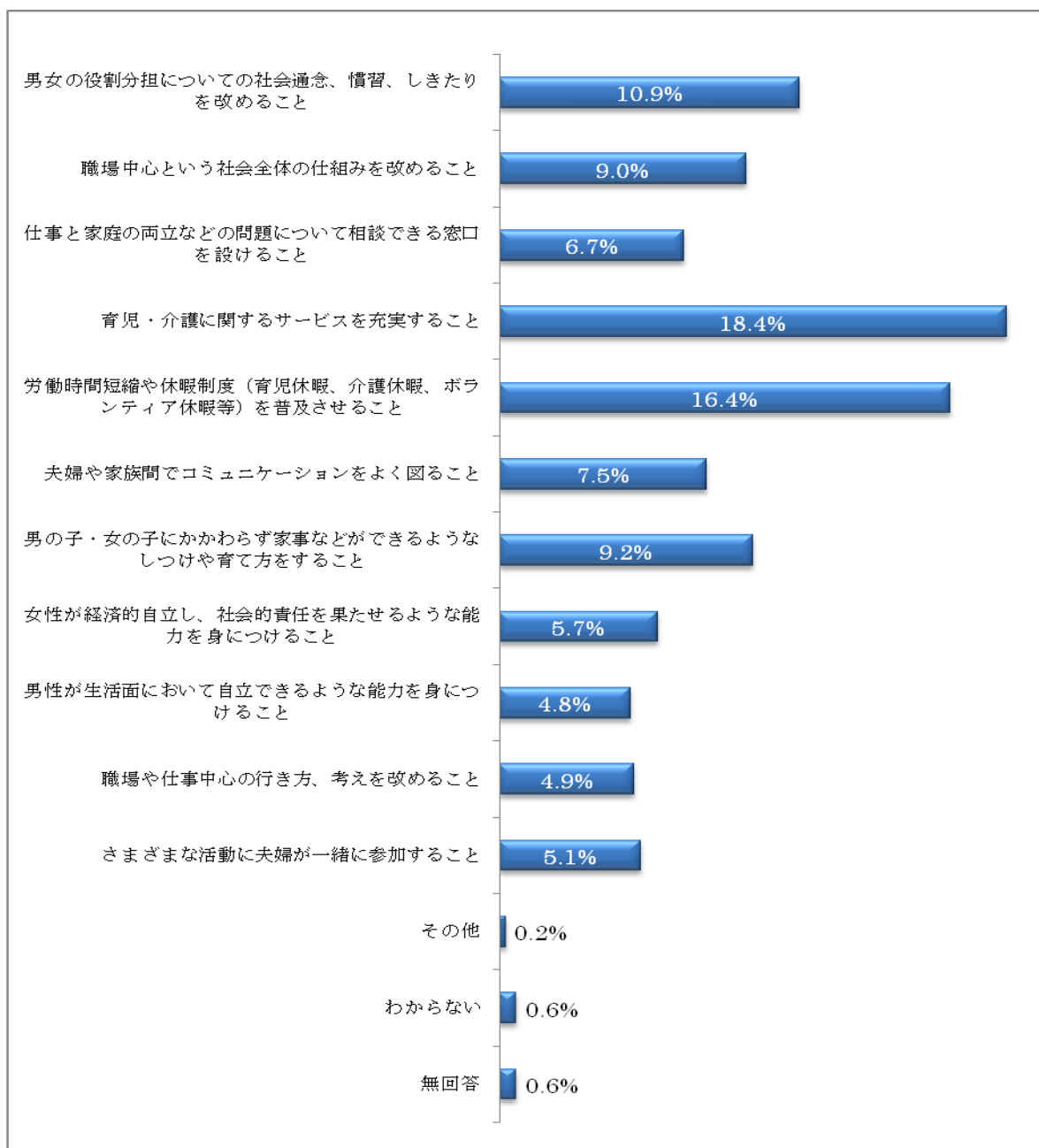
項目名	回答数	構成比
国や地方公共団体の審議会・委員会の委員などに、女性を積極的に任命する	90	11.9%
国や地方公共団体が、職員の採用や管理職への登用などで、女性の数や比率を定める割当制を設けるようにする。	52	6.9%
国や地方公共団体が自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する	141	18.6%
企業などが、社員の採用や管理職への登用などで、女性の数や比率を定める割当制を設けるようにする	62	8.2%
企業などが、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する。	151	19.9%
理工系などの女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う。	35	4.6%
女性の企業家に対し、融資など支援を行う。	41	5.4%
防災、地域おこし・まちづくり。観光環境の分野への女性の参画の拡大	133	17.5%
その他	14	1.8%
わからない	34	4.5%
無回答	5	0.7%
計	758	100.0%

## 2. あらゆる場面への積極的参加について

問 男女がともにあらゆる場面（仕事、家事、育児、介護、地域活動など）に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを三つまで選んでください。

- 「育児・介護に関するサービスを充実すること」と回答した人が 18.4%、次点で「労働時間短縮や休暇制度（育児休暇、介護休暇、ボランティア休暇等）を普及させること」が 16.4%となっており、それに続いて「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」との回答が 10.9%となっております。

図表 あらゆる場面へ積極的に参加するために必要なこと





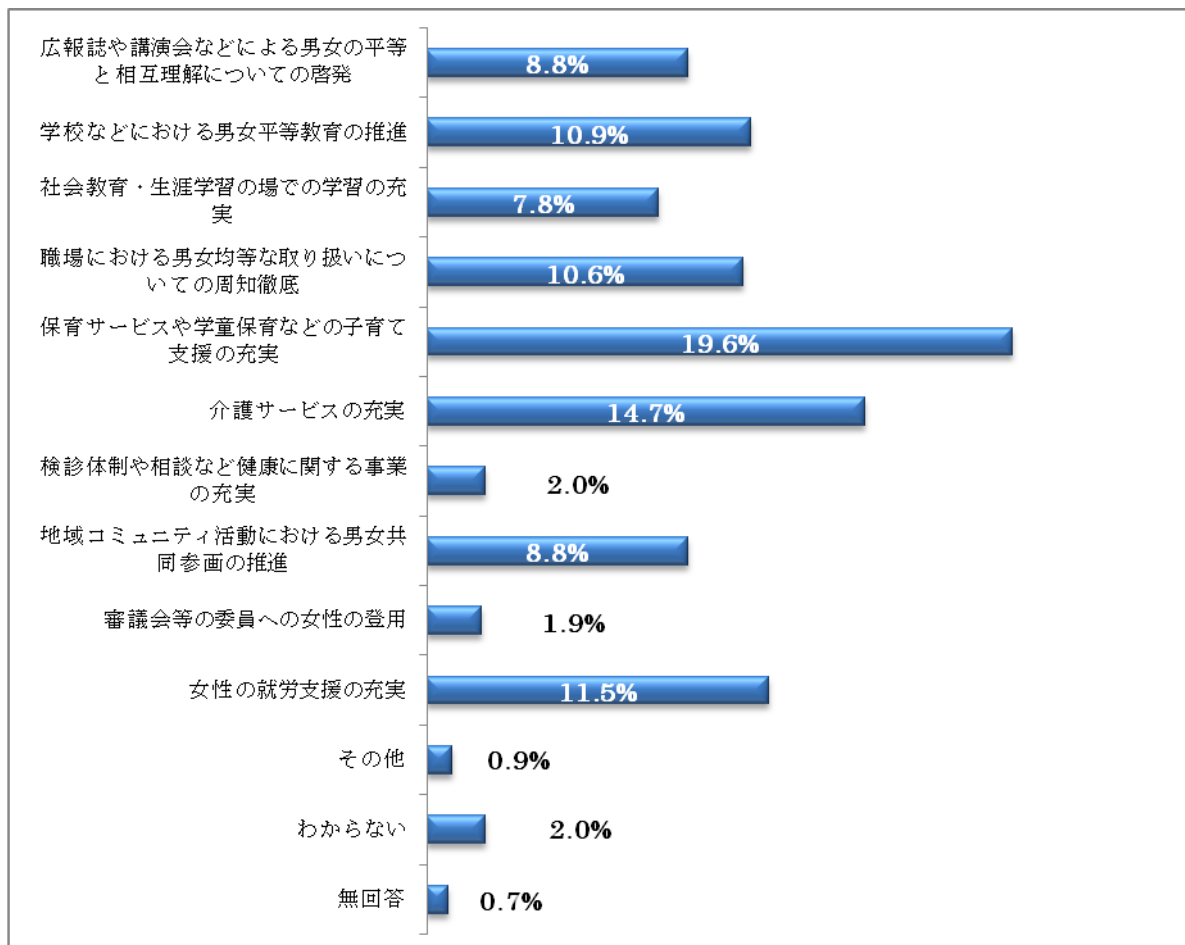
項目名	回答数	構成比
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	91	10.9%
職場中心という社会全体の仕組みを改めること	75	9.0%
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	56	6.7%
育児・介護に関するサービスを充実すること	154	18.4%
労働時間短縮や休暇制度（育児休暇、介護休暇、ボランティア休暇等）を普及させること	137	16.4%
夫婦や家族間でコミュニケーションをよく図ること	63	7.5%
男の子・女の子にかかわらず家事などができるよう なしつけや育て方をすること	77	9.2%
女性が経済的自立し、社会的責任を果たせるような 能力を身につけること	48	5.7%
男性が生活面において自立できるような能力を身に つけること	40	4.8%
職場や仕事中心の行き方、考えを改めること	41	4.9%
さまざまな活動に夫婦が一緒に参加すること	43	5.1%
その他	2	0.2%
わからない	5	0.6%
無回答	5	0.6%
計	837	100.0%

### 3. 町の施策に望むこと

問 「男女共同参画社会」を実現するために、町の施策に望むことは何ですか。次の中から当てはまるものを3つまで選んでください。

- 「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」と回答した人が 19.6%、次点で「介護サービスの充実」が 14.7%となっており、それに続いて「女性の就労支援の充実」との回答が 11.5%となっております。

図表 男女共同実現のために町に望むこと



項目名	回答数	構成比
広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発	71	8.8%
学校などにおける男女平等教育の推進	88	10.9%
社会教育・生涯学習の場での学習の充実	63	7.8%
職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底	86	10.6%
保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実	159	19.6%
介護サービスの充実	119	14.7%
検診体制や相談など健康に関する事業の充実	16	2.0%
地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進	71	8.8%
審議会等の委員への女性の登用	15	1.9%
女性の就労支援の充実	93	11.5%
その他	7	0.9%
わからない	16	2.0%
無回答	6	0.7%
計	810	100.0%

## Ⅱ－８． ご意見・ご要望について

---

自由意見欄に記入した人は、91人で、回答者(297人)に対する記入率は31.0%でした。

以下自由記入に寄せられたご意見

(男性、20歳代) 男性は男性のやるべきことを、女性は女性でやるべきことをすればいいと思う。いくら男女を平等にしようとしても経験がないから説得力のかけらもないけど、結局人間それぞれだから平等にはならないと思う。平等になったとして平等じゃなかった時代の人から見て、「あの時平等だったほうがよかった」と思う人も出てくると思う。平等かどうかはその人たちの対応によって決まるし、人間人それぞれだから、平等にするのはどんなに思考したとしても無理だと思う。

(男性、20歳代) これからの世の中は女性の社会参加を増やすことが日本の経済を成長させる鍵だと思っています。GDPの水準が維持できるかどうかは不透明なときこそ、政策での女性参加を促すべきだと思います。町に対しては女性が就労しやすい環境づくり（待機児童を減らす雇用拡大のための企業誘致を希望します。ほかの自治体では企業内に保育所を設置するなどしているのよいいと思ったものはどんどん取り入れるべきです。少子高齢化、過疎化が進む現代、女性の飛躍なしには地域の活性化にはつながらないと思います。「夫は仕事、女性は家庭」そういった古風な考え、ご都合主義とは決別するべきだと思います。

(男性、20歳代) 男女共同参画で男女平等といっているが、報道や今回のアンケート内容から、女性ばかりが優遇されている印象をうけた。女性ばかりではなく男性の雇用についても同様の制度を制定しなければ、男性からの支持が得られないのではないかと思います。アンケートも女性のことばかりで男性がないがしろにされているような印象を受け、これでは男性からの返答が少なく、公平な結果が得られないと思います。

---

**(男性、20歳代)** 男性で、「女性は〇〇であるべき」といった固定観念を持つのは高齢の方が多いと思うので、年代にかかわらず男女平等に理解を示すことが必要であると思う。  
一方、女性が重視される際に、男性を軽視する危険性があるので、常に中立の立場で物事を考える必要があると思う。

**(女性、20歳代)** 保育所の空きがないのが一番つらい。申請するにも仕事が決まっていなひとは後回し。預けるところがなければ仕事もできないのに…今子供が二人居ますが、無認可に預けようと思うと8万円以上といわれました（子供は0歳と2歳です）それではフルのパートで働いても身体的につらいだけです。うちは金銭的にも余裕があるわけではないので、短時間でも働きたいのが現状です。なのでまず、男女共同参画社会とか企業がどうのではなく、保育機関の見直しが先決だとおもいます。働く気があれば仕事は見つかると思っているので…

**(女性、20歳代)** 働きたいが、子供が二人や三人いると、保育料がかさんで働く意味がなくなってしまう。兄弟で預ける場合はもっと安くしてほしいし、パートでいいので、3時までの仕事を斡旋してほしい。

**(女性、20歳代)** 役場で男女共同参画を推進するということだが、では職場（役場）の職員でどれだけの人が理解し行動しているのか？推進しようとしている立場の人間が理解していないのに、町民に押し付けるのはどうなのでしょう。議会の議員、もしくは職場の管理職の女性率を上げるなどの対策は、そもそも登用される女性の能力を前提に行わなければうまく回らないのではないのでしょうか？別に学歴等で判断するわけではありませんが、大学も出ていない、政治に対して何の知識もない人が議員になってしまうまちにおいて、本当にこのような政策自体が意味あるのか、ちゃんと考えてから行うべきではないのでしょうか。女性が上に立つのなら、上に立つだけの人間性、知識、カリスマ性、専門への精通（大学での勉強、職場の研修）が必要でしょ、と同じ女性として思うのですが。

**(男性、20歳代)** 女性がもっと職場で活躍できるような環境作りを行ってほしい。また、育児に関する支援や職場で受けたセクハラなどに対するケアや、転職による支援を充実させてほしい。男性にも育児に携われるような環境を作ってほしい。

**(女性、30歳代)** 以前勤めていた企業は、女性社員が子どもや親の介護のために相対や欠勤をすると男性の上司にいやな顔をされていた。中小企業では育児や介護のための制度は名ばかりで、実際は快く休ませてくれる上司は少ないと思う。そのため、私も子供のために退職することを選んだ。女性が社会でも活躍するには、政策や制度以前の問題として、男性による理解「家のことは女」という古い慣習からの脱却が先ずは必要だと思う。子育て支援センターをよく利用していますが、子供が遊べる場を月に一回でも設けてみてはいかがでしょうか？

**(女性、30歳代)** 保育所や公立の幼稚園などのこどもを預けられる場所を増やしてほしいと思います。他見から引越し等で来て回りに身寄りのない人は預ける場所がなければ働けません。女性も平等に働くために少子化を解消するためにも絶対に必要なことだと思います。

**(男性、30歳代)** 待機児童をなくすよう、保育所、幼稚園の数を増やす。また時間を長くする。女性が8H勤務できるよう、AM7:00~PM7:00くらいまで預けられるようにする。小学校も同様。

**(男性、30歳代)** 男女の性別により区分するのではなくて、個人の能力に応じて街づくりに進むべきでしょう。基本的に性別は関係ないです。ただし、妊娠出産に伴い、職場でのハンディを考慮していけばいい未来があります。

**(女性、30歳代)** 学童保育や保育所などの施設が増えたら女性がもっと働きやすくなると思います。介護はとても重労働なので、男性の協力が必要不可欠であると思います。男性が仕事の休みを取りやすい社会になるといいですね。

**(女性、30歳代)** 年配の方の意識を変えること。若い世代は子育てなど、父親も参加するのが当然と思える中で暮らしているので、現代は暮らしやすいと思う。しかし、それを見る年配者が「男が〇〇するなんて」「奥さんに使われている」など理解度が低いと思う。授業参観、子供の行事等今は夫婦参加が当たり前だが、「昔は会社を休んでまで行ったことがない」などという年配者もいるので、年配者が男女平等や、子育ての男女平等について学ぶべきと感じる。古い考えを変えないと、町も変わらないと思う。

**(男性、30歳代)** 子育て支援が充実していないのでもう少し充実できるようにがんばってほしい。  
被災して最近引っ越してきたが、被災者をサポートしてくれる支援がないので、考えてほしい。

**(男性、30歳代)** 女性が社会進出する機会も多々あると思うが、さまざまな状況を考えて参加させるべき。家庭も家族も理解がないと社会に進出しなくてはいけないなら無理して参加させる必要もないと思う。  
本人にやる気があって、男性と女性の区別のできる会社なら進出すべきと思う。また本人も女性という自覚がなければいいと思う。最近女性進出を促すあまり、女性に対して有利な制度が増えすぎている。

**(女性、30歳代)** とにかく保育所に入所できない。子育てしながら一人で生計を維持するのが難しい。見てもらえる時間が短い。病気の子供を預ける場所がない。世の中から置いて行かれる町。

**(女性、40歳代)** アンケートをとられてもその後の町政がよくなっていると感じられません。ぜひ町政に活かし住民のためになるように祈念します。日ごろ女性の家事労働、育児が仕事とバランスよく出来ているとは感じにくいと思っています。その上賃金は低く抑えられ町でどうこうできる問題ではありませんが、せめて安心して働けるよう、保育所や学童保育の現場の労働水準を上げ保育士等の人員配置を整えてほしいと思っています。あわせて病児保育施設を早急に実現させることが、働く女性を後押しするおおきな事業であると思います。子供を生み育てやすくすることは、ゆくゆくは男性も女性も平等に社会に貢献できるようにする道を切り拓くことになると思います。介護サービスの充実も然り。

**(女性、40歳代)** 育児をしている立場として社会復帰を望むにあたり、子育て支援の充実を強く希望しております。育児をしながらの求職活動は不利になりがちでなかなか就労にいたるまで困難なので女性の求人における情報提供などの支援を求めます。

**(男性、40歳代)** 町民の子が町立の保育園に入れず状況を改善してください。町（町長、町議、職員さん）の義務です。人口の減少（若い世代）を高齢者の割合だけ増加して、税金だけ高い。こんな町、長居したくない。町村合併（合理化）は反対するくせに。

**(女性、40歳代)** 年齢などに関係なく社員登用の制度を設けてほしい。年齢により、40歳を過ぎると社員ではなく、パートにされることが多々ある。独身であれば、一生働いて生きていかなければならないので、パートでは金銭的に困るので、社員の採用を極力増やしてほしい。

**(男性、40歳代)** もっとやるべきことがあるはず。

**(女性、40歳代)** 女性は育児が終わると、介護と自分の時間に余裕がない。もっと時間と精神的に余裕が持てるようにサービスを充実してほしい。また、何歳になっても知識、技能を身につける場をつくってほしい。何か始めようと思っても、無知では何も始まらない。



(男性、40歳代) 若い方は比較的対応しやすいと思われませんが、年配の方々はなかなか対応できないと思うので、そのあたりから変えていかないといけないのではないのでしょうか。

(女性、40歳代) 職場における男女平等といわれますが、一部の職種（公務員、医師、弁護士など）に限られように感じます。現実には求人時点で女性に難しい仕事は最初から男性を前提として募集しているのでその段階ですでに賃金格差が出てしまうのが今の社会だと思います。官公庁や大企業ではアルバイトやパートにも病休や、産休、育休にも理解あるため取得しやすいですが、中小企業では長く休む＝退職になるケースが多いように感じます。柴田町にも多くの会社がありますが、一社でも多くこの制度を理解してくれる会社が増えて、女性が安心して長く働ける職場がひとつでも多くなることを希望します。

(女性、40歳代) 学習する場をもっと教えていただければ参加したいと思います。

(女性、40歳代) この質問、回答自体、男女共同参画の意識に程遠い内容で非常に残念です。

(女性、40歳代) 共働きで働く上で、ファミリーサポート制度。本当に助かっています。

(男性、50歳代) 教員をしていますが、学校現場では十数年も前から男女平等が定着しています。社会に出ると急に男女平等でなくなってしまうのは、いまだに結婚出産育児に関して、女性の負担が大きいためだとおもいます。テレビで報道されましたが、人口が増えているのは安心して子育てできる制度を実施している自治体です。「安心して休めて、安心して職場復帰できる」柴田町であってほしいと思います。（今回のアンケートは、身近なところの男女平等について考えるいいきっかけになりました）

(男性、50歳代) 性別の役割は必ずあります。子育ても母親に掛かるところが多く重要です。各家庭で違いもあることだから一概に決められません。いろいろ思い、考えながらベストを選択するほかありません。

(女性、50歳代) アンケートでも触れましたが、我が家は親父が一人の給料で生活していますが、年齢が行くにつれて給料が安く、生活が苦しくなっています。車の運転をしないと、どこでも働けない。そのような人の職場を作ってほしい。

(女性、50歳代) 男性女性という性にとられることなく、一人の人間として社会に貢献できる人材を育成していく。教育や、生涯学習の機会がたくさんある。あるいは拡大充実していくことが大事だと思います。  
格差が広がる社会の中に、一人ひとりが大事にされる平等な社会になるとすばらしいと思います。努力なしには何も生まれませんと思っています。道は長い～～です！

(女性、50歳代) どちらが優位に立つということなく、お互いに支えあうという考えかたが必要と思われれます。また、女性の社会進出により子供に情緒的な影響がでないか、また、離婚が増えないか、心配です。女性の差別がなくなることや、社会進出も大事ですが、男女で次世代をしっかりと育てるという視点が欠けると後々ツケが回ってきます。正しい参画社会の理念を子供時代からしっかりと教え、ないと、お互い尊敬しあう気持ちが育たないと思います。

(男性、50歳代) 「男女共同参画社会…法」ができるころから結婚しても子供は1～2人っこになり、子供の数が減って人と人との係わり合いができなくなり、よってすぐに「カッ」と切れやすい若者が多くなり、殺人などを起こす。国の借金が多くなるとともに大企業からして「金金金」と利益とお金中心となり、人間として人でなくなっている状況にある。(所詮大企業は国から税金を取られるくせに) さらに男が女に変装したり、男同士での結婚が当たり前のような人間社会になってきている。もうここまできたら人間社会ではないと思う。男は男、女は女で体の構造そのものが違うのだから、その性で生まれてきたからにはその性に沿った教育をするべきである。(差別ではない。大昔のような女は男に続けでもない) 今の日本は男女平等の名の元に本来の人間の生き方を忘れていてのではないのか? 男と女との役割分担の中で助け合い精神を持つべきである。先の「東日本大震災」のとき、男は力仕事、女は炊き出しではなかったか

(女性、50歳代) 職場では本件をよく耳にしたり、冊子等の配布があるので実感がわきますが、柴田町に住んでいては、まったくといっていいほど耳にしない気がします。(インパクトがありません)

柴田町にて仕事をしていないせいなのでしょう。私が町から配布される文書等見逃しているせいでしょうか？

なお、このアンケートで得られた結果をどのように町民に周知活用されるのかが気になるところです。

(女性、50歳代) 税金少し高くないでしょうか？

(女性、50歳代) 男女共同参画社会の実現のために、数年前から町のほうでもいろいろな催しが行われるのはすばらしいと思っています。男女共同参画社会が当たり前のようにするには、個人がそれぞれの力を十分に発揮されることが大切だと思うので、情報の提供や、発言の機会があることは大切だと思います。

男女共同参画を掲げても環境を確保しないと、女性が仕事をやめざるを得なくなると思います。

(男性、50歳代) 男と女と考える前に、動物としてのオスとメスである。その役割は自然と決まってくるのであり、時代の求める方向に行くのではないか？

(女性、50歳代) 世の中とおっている考え方が、少しずつではあるが変化しているので、古い慣習にとらわれることなく、柔らかな頭で子育て支援を考え、町としても、保育のサービスや、女性が中心になってきた介護のサービスにも、気軽に利用できるものがあればいいのではないかと考えます。

(女性、50歳代) 男女共同参画社会という言葉自体あまり聞いたこともないし、内容もよく理解していない。なんとなく意味はわかるのだが、男女の役割が家庭でも職場でも決まっている気がして、社会全体で平等とかいっても、まだまだ進まないような気がする。一刻も早く職場でも家庭でも、男女平等になってほしいと思う。それには子供が小さい時からの教育かな～？

(男性、50歳代) 生活最優先では？理想はわかりませんが。

(男性、60歳代) 計画でなく、実行が大切

(女性、60歳代) ようやくハード面（法律や教育、メディアの常識など）が男女共同参画社会にかじをきって進むようになってきました。しかし、ソフト面はまったくまだまだこれから始まるというのが実感です。家事も育児も親の介護も、奥さんが居れば当然奥さんがするという旧態依然の日常が我が家でも繰り返されています。（夫は仕事が日常です。）朝から晩まで。女性自身が能力を高めて覚醒したとしても家事労働から解放されるのはいつくるのかしら？誰が夕食をつくるのか、誰が布団をしいたりシーツを交換するのか。誰が夫のお茶を出すのか？いつ具合が悪くなるかわからないからおちおち家を空けられません。誰がおばあちゃんを病院へ連れてって面倒を見るのか。子育てが終わってやれやれと思っても、家族がみんな死に絶えるまで、主婦は家族に縛られてその分幸せもいただいて暮らしていくわけなのです。

(男性、60歳代) 地元の企業に働く人が多くなるよう要望いたします。他町からの人たちが遠くから、地元の人たちが遠くへ働きにいつてるようでは困ります。また、町内企業が少ない。

(女性、60歳代) 町全体としての「男女共同参画社会」についてはよくわかりませんが、私の職場はとてもいい環境に恵まれてきました。フルタイムで働いていたときも職場全体ではよかったです。ただ、こどもを見てくださる方を探すのが大変でした。

(男性、60歳代) 即、行動

(男性、60歳代) 女性が安心して仕事ができる環境を作ること。  
給料体系で男女の差をなくす。  
子供が居ても安心して働ける託児所を作る。

(男性、60歳代) 「男女共同参画社会」を実現することは理想です。その前に各居住区の人が「区の行事に参加したい」、「やってみてみたい」という意識を持たなければならない。残念ながら私はそういう気持ちになったことは一度もありません。役員の方も積極的にその立場に参加してるとは思えませんし、区の行事に関してもペーパー上の話だけで、参加しなくても行事にまったく影響はありません。共同参画のためには先ず地区住民の意識改革と参加したいという気持ちを起こさせる施策が必要だ。

(男性、60歳代) 一度の人生、人々との出会い、住めば都。人生苦も楽も受け入れられる、自己を作り上げれば、人生捨てたものではありません。

(男性、60歳代) 男女共同参画といっても個人の状況、性別、立場が異なり、なかなか難しいと思います。まず社会人として参画という意味をもつこと、男女が特異な条件を考慮して、どのような方法、要領で参画できるか意見を聞くことが大事だと思います。

(男性、60歳代) 1、子育て支援の充実  
2、高齢者への就職支援  
3、シングルマザーへの就業支援と経済支援  
4、待機児童の解消  
5、女性が安心して子供を生み、育てていける環境をつくる。  
6、若い男女の結婚支援  
※超高齢化社会への対策として

(男性、60歳代) 頭で理解しようとしても、みんなで話し合える機会がなく、うわべだけになっている。男女で話し合いの場が少なくお互い遠くなってしまふ。特に高齢者男子の意欲低下が目立つ

(男性、60歳代) 派遣会社そのものがある限り、若者の将来はない。

(女性、60歳代) 地域の活動に男女関係なく多く参加して、ともにできることを地域のために役立てることを行う。これにより、お互いに⑧の共同参画の推進になるのではないかと。わが地区ではうまくいっているのではないかと思う。

(女性、60歳代) 女性が外に出て、働き収入が増えるのはいいことですが、子供の小さいころからのしつけ、教育、地域のふれあいなどに参加する機会をふやし対人恐怖にならないように教育する。(道であっても挨拶しない子が多い) 私個人の考えでは学校から帰ると家に誰か待っているということは、お話する時間を十分に取れるということ。子供の話をゆっくり聞いてやることで子供の学校での様子や、友達のこと、給食のことなどが理解できると思います。母親が働く時間は子供が成長してからも十分取れるので、小さいときは一緒にいつ時間をたくさん作ってスキンシップし、愛情を注げば道德教育にもつながると思うので、まずは家庭円満を子どもに教えてほしい。(お金のことは二の次にしてほしい)

(男性、60歳代) まずは、行政区にそういった機関を置き、住民に周知徹底することが重要かと思います。

(女性、60歳代) 私は地元本部がある会社に勤めているものです。業種は小売業(スーパーマーケット)チェーン店の女性店長です。わが社は新しいことをどんどん時代に合わせて取り入れ、現状にマッチした取り組みを行ってきました。一番にあげれば、役員一同男女差別をしない。能力を評価、女性でもどんどん責任ある仕事を任せてもらってます。出産した若い社員には子育て支援として、保育所、育児の補助を行っており、女性としてはうれしいことです。また、いろんな問題に(個人)に備えて相談窓口を開いており、専門者にすぐに相談できます。このように働くものたちを第一に考え、大切にしてくれている会社にはとても感謝しています。柴田町の企業にも大企業と変わらない取り組みをしていることを知ってもらえればうれしいです。※私は休みのとき朝の散歩に船岡公園に行きます。月四回、週一回にリフレッシュしています。明日からまたがんばる気持ちにさせてくれます。花もきれいですばらしいですね。ありがとうございます。

(女性、60歳代)

女性が仕事をするのはやはり家族の協力は必要だが、若い子育てしている女性は、体調不良で頻りに休むことがある。それでは職場も大変である。保育サービスの充実、保育所にもちょっとした熱発は看られる環境。共働きしている、子供を（学童保育）必要時利用できる施設などあれば、安心して女性も仕事できるし、子育てもできると思います。

男女共同参画を掲げても環境を確保しないと、女性が仕事をやめざるを得ない区なると思います。

(男性、60歳代)

きめ細やかな特性を持つ女性が、行政、介護、保育等に男性より適任ではあるが、行政は認識が逆であることが残念。つまり、肉体労働は男性、知的、事務的、介護医療面は女と分けるべきが当たり前ののだが、自宅介護、家庭の守り役をどれだけ負担を減らして、女性を家庭から解放することが重要因子である。※設問ではいかにも女性の能力が低いゆえに研修研鑽が必要であるといった、事項には腹が立つ。公務を女性中心のワークシェアリングに描きうる施策を打ち出せる町運営を夢見てる。

(女性、60歳代)

就労時間の改善アンケートなどで、参画できる時間帯ができたらいと思います。

(女性、60歳代)

先日女性が働きやすい環境づくりをしている福井県をTVで見ました。

たとえば、

①学校行事で休んだりする場合、会社が協力的に手助けをしている。

②保育園では通園していない子供でも親が用事ならば預かる。

③三人目からは保育費が無料。

ほかにも何かあったかもしれませんが思い出せた分です。

女性が働きやすいように町全体が見守っていて、感心させられました。

(女性、60歳代) ある課に行って女性でも男性でも役所はちっと鼻にかける態度がいやです。役所に勤めている人みんな同じだと思うのですが、一番上司がそういう教育をしているのですか？それとも課の上司がそういう教育をしているのでしょうか？役所に行くのがいやです。  
役所に相談に行くと相談したことがその日のうちに全館に話が出回るといことはそういうことなのでしょうか。

(男性、60歳代) 第三次しばた男女共同参画プランに基づく事業計画書をネットで始めて拝見しました。とてもすばらしい計画書だと思います。がんばって計画を実施していただきたいと思います。ただし、たとえば、子育て支援や、介護など社会保障経費では、予算財政に左右されて大きく実行面に影響されかねませんので、保障の充実、安定化にご努力ください。消費税も当面どおりの社会保障費として全うされるかわかりませんが、消費増税分を企業の法人税減税にならないことを願うものです。

(男性、60歳代) 育児休業法でも平等の権利として、柴田町の企業（小さな店舗でも）は積極的に進めていただきたい（公務員などが優遇されている）

(男性、60歳代) 根本的に、具体的、精神的な違いがあるので、すべてに平等を唱えるのは、違和感がある。都合の悪いことがあれば「女性だから」を発し、都合のいいときには相手をどんどん責める、非情な一面が見られる。いい例は韓国の大統領である。

(男性、60歳代) わかりやすい言葉で質問してほしい。

(女性、60歳代) 男女だからではなく、お互いの気持ちを尊重しあうことが大事なのではないのでしょうか？

(男性、70歳代) 「男女共同参画社会」という表現から堅苦しいイメージを受けて構えてしまうのではないのでしょうか。もっと理解しやすくやわらかいイメージをもたれるように解説を加えらるとなじみやすくなるのではないのでしょうか※一工夫凝らして溶け込みやすくするのもいいのでは



---

(男性、70歳代) 男女平等というのが本当に平等か疑問を感じる事象、働いていたときにあった。(例、正社員の子供事務員はお茶だしや机の清掃を一切やらなくなり、派遣女子社員だけが感謝してやってくれた。)

(男性、70歳代) 大いに勧めてほしい。

(女性、70歳代) 人間としての基本姿勢が充実してこそ、人生への尊厳が生まれるはずが、権力だけを前に出すのではなく、お互いに自分をよく知ることが大事ですね。その上で個々が目標に向かって一生懸命に努力する姿勢が大事ですね。男女がバランスの取れた人間が生まれるようになるには教育が必要で、それで何事にも向上心が必要になってきます。徐々にでもいいです。多様で柔軟な社会、期待しています！

(女性、70歳代) すべてについて男女平等とはいかがなものか。私の知人で男女を募集したが、女性は朝9時から夕方4時までの勤務を希望するとのこと。これではフルタイムで働いている男性社員との格差が出て、雇用側が判断に苦しむ。特にサービス業は夕方から忙しくなる。それなのに、4時までの勤務では、暇な時間だけ働いて忙しい時間に不在となれば、何のために採用したのかわからなくなる。経費の無駄遣い以外の何者でもない。男女平等を唱えるならば、先ず女性の心構えが重要である。

(男性、70歳代) 男も女もそれぞれ特性というものがある。それぞれの特性に応じて進めるべきだと思います。

---

**(女性、70歳代)** 約60年前国家公務員試験を受け、公務員として仕事していましたが当時は保育所、学童保育もなく、転勤で仙台に来てからは、身内もなく子どもの教育等で仕事を辞するほかなく今日に至っております。女性も職場に甘えることもなく、男性と同じく仕事をしていくべきだと思います。ただいま思うことは、子供の教育は家庭であり、子育てはやり直しができないということです。その意味では仕事を辞したことに後悔はありません。年金については猫の目のように変わる制度に驚いています。男女ともに行政に関心をもって日々をすごしてほしいと思います。

**(女性、70歳代)** 高齢化社会を伴い介護などの問題が起きてきている。そのために女性が正社員として収入を得ていくことが難しくなっていると思われる。共同で社会に参画できるためにはある程度の男女の役割分担がでてきても仕方がないけど、女性自ら社会に目を向けていく姿勢は大事だと思うので、啓発的な支援をしてあげればよいのではと思う。

**(男性、70歳代)** 町として条例を作ったら実施計画を作り、展開すること。このとき誰が責任を、持ってやるのか明示するべし。違反者や（事業所および個人）不都合者の見極めをする判定者、管理者が誰なのかどうするのか、今までの途中条例の段階では不明確だ！罰則はどうする、何を罰則とするか。条例は作っただけで意味がない。国はすべてを地方に投げて、それで終わりだとしているので注意すべし。町として利益の出せる条例でなければ意味ありませんよ！いままで第三次計画を今に合うよう何百回も見直しが必要です。

**(無回答、70歳代)** 74歳なのでわからないほうが多かったと思う。しかし妻は積極的に町、部落に対してがんばってるようです。これからはすみよい街づくり、特に老人に対しての配慮、お願いするつもりであります。

(無回答、70歳代) 74歳なのでわからないほうが多かったと思う。しかし妻は積極的に町、部落に対してがんばってるようです。これからもすみよい街づくり、特に老人に対しての配慮、お願いするつもりであります。

(男性、70歳代) どんな形で実現されるのか注目したい。

(女性、70歳代) 30代、40代の人達は男女共同になっていると思うか？70代、80代はまだまだ男社会です。介護など、女かまだまだやらされていると思います。介護サービスの充実を求めます。

(男性、70歳代) 家庭生活において、男性（夫）女性（妻）の役割分担について、子育て、介護については、どうしても女性に負担がかかるようになるので、女性が参加しやすい社会環境が必要である。社会環境の整備が重要なポイントになると思っている。

(男性、70歳代) 日本の歴史の中で、男と女の生き方が、伝統文化の中で培われてきているので、これを変えるというのは総合的には日常生活を一変することを意味するので、家庭と学校での長期教育にかかっていると思います。

(男性、70歳代) まず、家庭内での経済、夫婦間の分担をよく話し合いが大切。育児子育ての家庭での分担確認。次に保育所幼稚園などの充実。それを支える（あるいはリードする）町や県、国の条例などの整備。県内の公立学校がいっせいに男女共学になったことは、男女共同参画社会の前進につながるのではないか。（長い目で見れば）

(女性、70歳代) 無理して共同参画社会を望んでいません。できる人は参画し、できない人は今までどおりでいいです。女性の立場で申せば、いい家庭はしっかり家を守り、子供たちのしつけをきちんとする人がいることが大切だと。自分は共働きでしたが、子供が小学生のこまでは帰宅時には居てやれればと感じていました。今は老齢になり、趣味その他の会合で男女の差なく参加しています。中小企業の賃金はあまりに低いので、どうしても主婦ではいられなくなります。男性の賃金がよくなれば社会の構図も変わるのでは？

(女性、70歳代) 現在は男子優位が見られると思います。柴田町は女性の議員さんも多いので、町、議会、教育現場、企業と総力を挙げて、安心してすみよい柴田町を作っていただきたいと思っております。

(男性、70歳代) 男女平等の社会の実現

(女性、70歳代) 災害時感じたこと  
炊き出し等をしてくださった方々に感謝はしていますが、おにぎりを下さるとのことで並んでいたら、炊き出しの方に避難所にいる人の分だけだと断られました。しかし知り合いの人が来たら、何でも差し上げているのを見ましたので、また並んでもらいましたが、そんなとき差別をするのはいかなもののでしょうか？

(男性、70歳代) いままでの社会情勢から考えて難しいと思う。でも少しずつ共同参画になじんできているのではないか。「3K」とかは男でなければ難しいでしょう。まず女性の意識を変えないことにはできないことではないか。それに職場、役所、いろいろな所において、少しずつ行かなければならないでしょう。男の意識も少しずつ。

(男性、70歳代) 男女共同参画といっても男女それぞれ本質的に考えの違いがある。また、すべて男女平等に意見を述べ、また、受け入れられる社会には程遠い。行政で義務的に考えているのではないか。まだまだこれらが根強く残っているのではないか。疑問だらけ。行政が義務的に考えているうちはこれの実現は難しいと思う。

(無回答、無回答)

社会で女性が活躍している方々の意見を参考にして、その課題を軽減する施策や仕組みを取り入れること。  
女性の育児、介護という偏見を撤廃または改善すること。  
メディアの男女共同参画のキャンペーンを積極的に取り上げること。